

s t u d y

G

e

2024年度
(令和6年度)

履修の手引き

人間環境大学

人間環境学部

心理学科
環境科学科

2 0 2 4

2024年度(令和6年度)人間環境大学岡崎キャンパス 事務取扱時間・学内施設利用時間

事務取扱時間

施設等	期間	授業期間・試験期間（前後期共通）	夏季、冬季、春季休業期間 (8/12~8/16、12/28~1/3 は全日休業)
教務課 総務課 学生支援課 就職・進路相談室		月～金 9:00～17:00 土 9:00～12:30 日祝 休業 (ただし、祝日が授業日の場合は除く) ※学内行事によって事務窓口が閉鎖する場合があります	月～金 9:00～17:00 土 原則休業 日祝 休業

学内施設利用時間

施設等	期間	授業期間・試験期間（前後期共通）	夏季、冬季、春季休業期間 (8/12~8/16、12/28~1/3 は全日休業)
食堂		月火木金 11:30～13:15 水 11:45～13:00 土日祝 休業 ※ただし、祝日が授業日の場合は営業	休業 ※ただし、集中講義期間中の営業日は、別途掲示
売店		月火木金 10:00～15:30 水 10:00～13:30 土日祝 休業 ※ただし、祝日が授業日の場合は営業	休業 ※ただし、集中講義期間中の営業日は、別途掲示
図書館		月～金 9:00～18:30 土 9:00～14:00 ※ただし、不定期開館のため、開館カレンダーを確認 日祝 休館	月～金 9:00～17:00 土 休館 日祝 休館
一般教室 (使用願要)		授業がある場合は原則使用不可 月～金 9:00～18:00 土 9:00～14:00 日祝 使用不可 ※事前に届け出があった場合は平日のみ 20:00 まで	月～金 9:00～17:00 土 使用不可 日祝 使用不可
PC教室		授業がある場合は原則使用不可 月～金 9:00～20:00 土 9:00～14:00 日祝 使用不可	月～金 9:00～17:00 土 使用不可 日祝 使用不可
体育館 (使用願要)		授業で使用していない時、昼休憩時間、 2号館で授業を行っていない時 月～金 9:00～18:00 土 9:00～14:00 日祝 使用不可 ※事前に届け出があった場合は平日のみ 20:00 まで	月～金 9:00～17:00 土 使用不可 日祝 使用不可
クラブハウス 弓道場 コンテナハウス		一般教室の利用時間に準ずる	同 左
バス運行		運行表は別途掲示案内どおり	運 休 (臨時運行の場合、掲示案内)

※祝日授業日の事務取扱時間・学内施設利用時間は、授業・試験期間の月曜日～土曜日の規定に準じます。

※長期休業期間中ならびに補講・集中講義期間中の施設利用時間については、別途掲示連絡します。

※補講・集中講義期間中の食堂・売店営業およびスクールバスの運行については、別途掲示連絡します。

※入学試験等学内行事のための登校禁止日については、別途掲示連絡します。

※臨時で利用時間が変更になる場合は、その都度掲示連絡します。

※一般教室・PC教室・体育館を平日 20:00 まで使用する場合は、原則 1 週間前までに届け出ること。

CONTENTS

学年暦	1
年間行事予定表	2

第Ⅰ部 教育課程の履修について

1. 人間環境大学建学の精神	5
2. 人間環境学部の教育理念	5
3. 人間環境学部の教育課程について	7
4. 人間環境学部の教育システム	11
5. 学年度と授業について	14
6. 単位制について	17
7. 学修計画と履修登録について	19
8. 試験について	25
9. 成績評価について	27
10. 卒業論文・学位について	29
11. 各種単位互換履修生制度について	31
12. 取得可能な資格について	33

第Ⅱ部 カリキュラム

1. 心理学科カリキュラム・科目表	42
2. 環境科学科カリキュラム・科目表	47
3. 2016年度（平成28年度）以前入学生用科目対応表	53

第Ⅲ部

1. 専任教員一覧・非常勤講師一覧	54
2. 人間環境大学人間環境学部心理学科教育課程および履修方法に関する規程	58
3. 人間環境大学人間環境学部環境科学科教育課程および履修方法に関する規程	69
4. 人間環境大学人間環境学部転・編入生の履修方法に関する規程	86
5. 人間環境大学授業に関する規程	88
6. 校舎案内図	91

2024年度(令和6年度) 学部学年暦

令和6年4月1日(月)～9月15日(日) …………… 前期

9月16日(月)～令和7年3月31日(月) …………… 後期

令和6年	4月3日(水)	入学式
	4月11日(木)	前期授業開始
	7月26日(金)	前期授業終了
	7月29日(月)～8月2日(金)	前期試験期間(予備日:8月5日(月))
	8月6日(火)	夏季休業開始
	9月9日(月)	前期成績発表
	9月19日(木)	夏季休業終了
	9月19日(木)	1年生後期オリエンテーション
	9月19日(木)	環境DS2年生後期オリエンテーション
	9月20日(金)	後期授業開始
	10月19日(土)～10月20日(日)	大学祭
	12月23日(月)	後期年内授業終了
	12月24日(火)～12月25日(水)	補講日
	12月28日(土)	冬季休業開始
令和7年	1月3日(金)	冬季休業終了
	1月8日(水)	卒業論文提出期限(卒業年次生)
	1月10日(金)	後期年明け授業開始
	1月24日(金)	後期授業終了
	1月27日(月)～1月31日(金)	後期試験期間(予備日:2月1日(土))
	3月1日(土)	卒業予定者発表
	3月1日(土)	在学生成績発表
	3月15日(土)	学位授与式
	3月17日(月)	春季休業開始
	3月31日(月)	学年終・後期終了

2024年度(令和6年度)
人間環境大学 岡崎キャンパス 年間行事予定表

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定	
								日付	内容
4		1	2	3 ^{入学式}	4 ^{オリ}	5 ^{オリ}	6	3(水) 入学式 4(木)-10(水) オリエンテーション期間 4(木)-17(水) 履修登録期間 7(日)-8(月) 新入生ウェルカムキャンプ(1年生) 11(木) 前期授業開始 24(水)-26(金) 履修登録修正期間 29(月) 授業日	
	7 ^{オリ}	8 ^{オリ}	9 ^{オリ}	10	11 ^①	12 ^①	13		
	14	15 ^①	16 ^①	17 ^①	18 ^②	19 ^②	20		
	21	22 ^②	23 ^②	24 ^②	25 ^③	26 ^③	27		
	28	29 ^③	30 ^③						
5				1 ^③	2	3	4	6(月) 授業日 6(月)-10(金) 履修取消申請期間(前期・通年科目)	
	5	6 ^④	7 ^④	8 ^④	9 ^④	10 ^④	11		
	12	13 ^⑤	14 ^⑤	15 ^⑤	16 ^⑤	17 ^⑤	18		
	19	20 ^⑥	21 ^⑥	22 ^⑥	23 ^⑥	24 ^⑥	25		
	26	27 ^⑦	28 ^⑦	29 ^⑦	30 ^⑦	31 ^⑦			
6							1		
	2	3 ^⑧	4 ^⑧	5 ^⑧	6 ^⑧	7 ^⑧	8		
	9	10 ^⑨	11 ^⑨	12 ^⑨	13 ^⑨	14 ^⑨	15		
	16	17 ^⑩	18 ^⑩	19 ^⑩	20 ^⑩	21 ^⑩	22		
	23	24 ^⑪	25 ^⑪	26 ^⑪	27 ^⑪	28 ^⑪	29		
	30								
7		1 ^⑫	2 ^⑫	3 ^⑫	4 ^⑫	5 ^⑫	6	15(月) 授業日(海の日) 7/29(月)-8/2(金) 前期試験期間(予備日8/5)	
	7	8 ^⑬	9 ^⑬	10 ^⑬	11 ^⑬	12 ^⑬	13		
	14	15 ^⑭	16 ^⑭	17 ^⑭	18 ^⑭	19 ^⑭	20		
	21	22 ^⑮	23 ^⑮	24 ^⑮	25 ^⑮	26 ^⑮	27		
	28	29	30	31					
8					1	2	3	7/29(月)-8/2(金) 前期試験期間(予備日8/5) 6(火) 夏季休業開始 7(水)/9(金) 追試験願提出期限/追試験許可証発行 19(月)-23(金) 前期追試験期間	
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19 ^追	20 ^追	21 ^追	22 ^追	23 ^追	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
9	1	2	3	4	5	6	7	9(月) 前期成績発表(学部) 14(土) 登校禁止日 19(木) 夏季休業終了/1年生後期オリエンテーション/環境DS2年生後期オリエンテーション 20(金) 後期授業開始 19(木)~26(木) 履修登録修正期間 23(月) 授業日	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20 ^①	21		
	22	23 ^①	24 ^①	25 ^①	26 ^①	27 ^②	28		
	29	30 ^②							

□ : 授業日〔①~⑮〕

□ : 試験日

1 (斜体数字) 日曜・祝日 ※祝日であっても授業が開講する場合があります。

□ : 事務窓口休業

2024年度(令和6年度)
人間環境大学 岡崎キャンパス 年間行事予定表

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定	
								日付	内容
10			1 _②	2 _②	3 _②	4 _③	5	4(金)~10(木) 5(土) 14(月) 18(金) 19(土)-20(日)	履修取消申請期間(後期科目) 登校禁止日 授業日 休講日 大学祭
	6	7 _③	8 _③	9 _③	10 _③	11 _④	12		
	13	14 _④	15 _④	16 _④	17 _④	18	19		
	20	21 _⑤	22 _⑤	23 _⑤	24 _⑤	25 _⑤	26		
	27	28 _⑥	29 _⑥	30 _⑥	31 _⑥				
11						1 _⑥	2	4(月) 9(土)	授業日 登校禁止日
	3	4 _⑦	5 _⑦	6 _⑦	7 _⑦	8 _⑦	9		
	10	11 _⑧	12 _⑧	13 _⑧	14 _⑧	15 _⑧	16		
	17	18 _⑨	19 _⑨	20 _⑨	21 _⑨	22 _⑨	23		
	24	25 _⑩	26 _⑩	27 _⑩	28 _⑩	29 _⑩	30		
12	1	2 _⑪	3 _⑪	4 _⑪	5 _⑪	6 _⑪	7	7(土)	登校禁止日
	8	9 _⑫	10 _⑫	11 _⑫	12 _⑫	13 _⑫	14		
	15	16 _⑬	17 _⑬	18 _⑬	19 _⑬	20 _⑬	21		
	22	23 _⑭	24 _補	25 _補	26	27	28		
	29	30	31						
1				1	2	3	4	12/28(土)-1/3(金) 8(水) 9(木)	冬季校舎閉鎖(学生登校禁止) 卒業論文提出期限(学部卒業年次生) 修士論文提出期限(修士2年生)
	5	6	7	8	9	10 _⑭	11		
	12	13	14 _⑮	15 _⑮	16 _⑮	17	18		
	19	20 _⑯	21 _⑯	22 _⑯	23 _⑯	24 _⑯	25		
	26	27	28	29	30	31			
2							1	3(月)-10(月) 7(金)-10(月) 4(火) 7(金) 13(木)-19(水)	卒業論文口頭試問期間 修士論文口頭試問期間 追試験願提出期限 追試験許可証発行/再試験該当者発表/再試験願提出期限/再試験許可証発行 追試験・再試験
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13 _{追再}	14 _{追再}	15		
	16	17 _{追再}	18 _{追再}	19 _{追再}	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28			
3							1	1(土) 10(月) 15(土) 17(月) 24(月) 31(月)	卒業・修了予定者発表 在学生成績発表 登校禁止日 学位授与式(学部・大学院) 春季休業開始 登校禁止日 学年終・後期終了
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20	21	22		
	23	24	25	26	27	28	29		
	30	31							

□ : 授業日〔①~⑮〕

□ : 試験日

1 (斜体数字) 日曜・祝日 ※祝日であっても授業が開講する場合があります。

□ : 事務窓口休業

第Ⅰ部

教育課程の履修について

1.人間環境大学建学の精神

人間環境学の探求

2.人間環境学部の教育理念

本学の理念と目的

人間環境大学は、人間環境学を理念とし、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。(学則第1条)

人間環境学部の人材養成に関する目的、その他教育研究上の目的

人間環境学部は、建学の精神としての「人間環境学」に基づいた教育を行っている。「人間環境学」とは、人間と環境とをそれぞれ一個の点のように考えるのではなく、また点として考えられた人間や環境をどう関係づけるのかという観点からでもなく、人間や環境を「人間環境」として、すでに相互に深く関係したものとして考えること、つまり、単に文化的な概念でもなく、単に科学実証でもない文理融合の教育研究を教育理念としている。

特に今日の IT テクノロジーのあらゆる分野での急速で高度な展開は、文理融合の「人間環境学」の理念なくしては取り組めない現代の諸課題を数多く含んでいる。人間環境学部は、今日の「人間環境」的な諸課題を踏まえて、建学以来の「人間環境学」の実践性を活かし、テクノロジーの時代における「人間環境」のあり方に深く自立的に関わることのできる人材を養成することを目的とする。

人間環境学部の3つの方針

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

人間環境学についての幅広い教養を身につけ、人間環境学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には、以下の三つの能力を以って卒業要件とする。

- ①個人・社会・自然が直面する課題に対して専門的な理解を深めると共に、学際的な柔軟性を有し、実践的な能力を有すること。
- ②グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力を有すること。
- ③企業・地域社会などのあらゆるコミュニティに寄与する組織的な活動能力を有すること。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

自然環境と社会環境を総合的にとらえる学問として「人間環境学」を位置づけ、その基盤のもと、人間が生活する歴史・文化的背景と、社会の経済的枠組みや自然科学的視点を理解する「人間環境学」の見地から、個人の社会の精神・心理の課題あるいは環境問題における課題を深く理解し、分析し、対応できる人材を育成する。

・心理学科

心理学科では、単に心理学という専門分野の知識を有した人材ではなく、自然・社会環境、歴史・文化環境の知識を有し、広い視野と柔軟な思考力を持って、現代社会に広く対処できる人材を育成する。中核となる心理学の科目は、基礎科目、5つの分野の発展科目、実習・演習科目から成っており、幅広く重層的にこれらの科目を履修することで、心理学全体の専門的知識と、データ解析や援助において心の事象を扱い深く理解する実践力を修得する。

・環境科学科

環境科学科では、自然・社会環境に関する専門知識と、精神環境と歴史・文化環境とに関する基礎知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成する。中核となる自然・社会環境科目では、自然環境分野の生態系（動物）、生態系（植物）、物質循環の3領域に、社会環境をあわせた4領域の科目を用意し、自然環境分野と社会環境分野との双方の分野の教養を得るに必要な単位数と、専攻する領域の科目を修得させることで、全体を見通すことのできる教養と、特定領域について特化した体系的専門知識を修得させる。

入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

人間環境大学では、人間と環境との関係に関する高度な知識や技術を習得しつつ、創造的に学問を深めることができ、主体的に物事に取り組む人を求める。

人間環境学部には心理学科および環境科学科がある。各学科の入学者の受入れに関する方針は以下に示す。

・心理学科

心理学科では、人間と環境との関係に関する高度な知識を修得しつつ、創造性と主体性を持ち、心理学の知識を実社会で活かすことによって社会貢献する意欲を持つ者を求める。

・環境科学科

環境科学科では、文系・理系を問わず、自然環境と、その保全に配慮した社会に関心があり、環境保全に関する知識と技能を、持続可能な社会の実現に役立てる意欲を持つ者を求める。

3.人間環境学部の教育課程について

学部共通科目

学部共通科目の概要

学部共通科目は、大学で専門的な分野を学ぶ前に、学問の基礎となる力をつけるために設置された科目です。人間環境大学では、さまざまな分野の問題を総合的に把握するための基礎的学問として「人間環境学」を学びます。

人々を取り巻く環境は、自然・社会・心理・文化の面から成り立っています。その仕組みを理解した上で専門的な問題に取り組むように考えられています。また、大学では学修した成果を表現することが必要となってきます。その方法はさまざまです。文献を検索したり、資料を集め、レポートを作成したり、パワーポイントを使用してその成果を発表する方法を学ぶための科目が「基礎ゼミナール」です。

今の社会は外国との関係をぬきにしては成り立ちません。あらゆる分野において国際的な視野をもって対応しなければなりません。そのために本学では英語やその他の外国科目（中国語とドイツ語）が設置されています。本学では、英語教育の目標を、「大学卒業後、仕事で英語が使えるための素地を習得すること」とし、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」とステップアップしながら、受信型のインプット（送り込まれる情報や知識）と発信型のアウトプット（送り出す情報や知識）を総合的に運用できる能力を身につけます。これらの科目に加えて、「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」、「ビジネス英語」も学ぶことができます。

また、現在の社会はコンピュータを利用した情報社会としての側面ももっています。情報の取り扱い方についての十分な知識がなければなりません。専門分野での学修だけでなく、社会に出てからも役に立つ情報処理の基礎を学ぶのが「情報実習」科目です。

大学を卒業した後の進路を考え、自分の将来をデザインすることも必要です。そのために「キャリアデザイン」、「ビジネスコミュニケーション」、「キャリア形成演習」、「キャリア教養基礎」という科目が設置されています。

学部共通科目の特色

「基礎ゼミナール」は1年次の学修の基礎となる科目です。そのため「基礎ゼミナール」は少人数編成クラスとし、学習の方法を実践的に学ぶことができます。学修面だけでなく、大学生活を総合的にサポートできるようになっています。「英語」、「情報実習」も少人数で、2年次以降の専門分野での学修に必要なスキルを実践的に学べる環境を作っています。「英語」以外の外国語については「中国語」、「ドイツ語」が用意されています。

心理学科

心理学科の概要

近年、家庭、学校、労働の場など、さまざまな分野における心の問題への対応の重要性が指摘されてきています。また、単に不調ではないということではなく、人々がより生き生きと自分らしく生活していくことの重要性も注目されてきています。心理学科では、われわれが蓄積してきた歴史や文化的な背景を理解し、社会の経済的な枠組みや自然科学的な視点も持ちつつ、人間の心への理解を深めていくことで、現代社会が抱えている心の問題に対して、幅広い視点からの提案と実践を提供できる人材を育てます。

この目標を達成するために、「精神環境科目」の「心理学基礎科目」「心理学発展科目」「実習・演習科目」によって、基礎的な心理学の知識から段階的に専門分野の知識を身につけ、実践的な授業の中で応用力や研究の力を習得していく系統的なカリキュラムを用意しています。さらに、「心理学発展科目」には、さまざまな領域の専門分野を学ぶことができるよう科目が配置されており、幅広い知識を身につけることができます。

また、本学に設置されている「自然・社会環境科目」、「歴史・文化環境科目」による学びも人間を多様な背景から理解することに役立つものであり、こうした学びの基盤を持ち「精神環境科目」で心理学を学んでいくことで、人の心を幅広く重層的に理解できるカリキュラムとなっています。

卒業後は、単に専門的知識を有する人材ではなく、現代社会の問題への対応力を身につけ多様な観点から問題を

分析できる人材として、企業、教育・福祉関連施設、地域社会などで活躍します。また、さらに大学院で研修を積むことにより、臨床心理士や公認心理師等、心理学の専門的知識を持って心の問題に対応できる人材となることも期待されます。

心理学科の特色

心理学科のカリキュラムは、基礎から実践・応用までの力を身につけるといふことと、さまざまな領域を幅広く学ぶということを重視しています。

具体的には、「心理学概論」や「心理学研究法」で心理学の基礎知識を身につけ、「心理学基礎実験実習」「心理検査実習」などによって研究実践に必要な基礎技能を身につけます。これらは「心理学基礎科目」に配置されていて、科学的・客観的に現象を分析する視点と、個々の人間の多様性を尊重する姿勢を身につけていく基盤となる学習をしていくこととなります。

系統的に幅広く学ぶための「心理学発展科目」は、「基礎心理学関連」「発達・教育心理学関連」「社会・産業心理学関連」「臨床心理学関連」「隣接関連」の5領域にわたっており、計32科目から学ぶことができます。いずれも現代社会の心の問題を理解していくために非常に重要となる学問領域です。たとえば、「基礎心理学関連」領域には、「学習・言語心理学」「知覚・認知心理学」等の科目があり、私たち人間の行動がどのような心のメカニズムで生じているのかを学びます。また、「発達・教育心理学関連」領域には、「教育・学校心理学」「発達心理学」「青年心理学」等の科目があり、子どもから大人へと成長していく中で経験していく問題や現象を扱います。「社会・産業心理学関連」領域では、「社会・集団・家族心理学」「対人関係論」「産業・組織心理学」等で、個人と社会の関係や、社会の中でわれわれ人間がどのように行動しているかを学びます。「臨床心理学関連」領域には、「発達臨床心理学」「カウンセリング心理学」「心理療法論」「司法・犯罪心理学」等、心の問題に対するさまざまなアプローチを深く学ぶための科目が設置されています。

実習・演習科目は、文献講読等の読解の科目や、実験法、調査法、面接法等の実践的な研究法の科目からなっています。文献講読の授業では、読解力だけでなく討論やプレゼンテーションの力も身につけることができます。研究法の授業では、データの収集やデータ分析の方法を身につけるだけでなく、分析力や考察する力も習得します。4年間の学びの集大成となる卒業論文の作成にも必要な知識とスキルです。

こうして心理学科では、人間を深く理解する姿勢と、客観的で科学的に現象をとらえる視点を学ぶことを通して、現代社会の中で、「個」を理解することや「社会」全体の心に対する理解を深めていきます。そして「個」と「社会」に貢献できる人材を育成します。

環境科学科

環境科学科の概要

人間社会は、地球環境から様々な物質資源・エネルギー資源を取り入れて利用し、その結果として生じる廃棄物や廃熱を再び地球環境に捨てることで成り立っています。すなわち、人間社会にとって、地球環境は資源の供給源であると同時に、廃棄物の吸収源でもあるということです。

また、人間の活動は自然の中での営みであるだけでなく経済社会活動でもあり、その地域の自然資源や文化、風土、市場など様々な基盤の上に成り立っています。地域が持続可能であるためには、経済社会活動によって資源が損なわれないようにしなければなりませんし、逆に地域資源の質の向上が、経済社会活動の向上につながる可能性もあります。

環境科学科では、持続可能な社会の実現に向けて、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育てることを教育目標にしています。この目標を達成するために、環境科学科では自然環境分野の生態系（動物）と生態系（植物）と物質循環との3領域、及び社会環境分野の社会環境領域をあわせた4領域のそれぞれを体系的に学びます。

生態系とそれを取り巻く自然環境との間での物質とエネルギーのやり取りの仕組みを理解するために、生態系領域と物質循環領域を配置しており、生態系領域はさらに生態系（動物）領域と生態系（植物）領域として配置する

ことで、生態系について専門的、体系的に学ぶことができます。具体的には、生態系（動物）領域では、動物の生態や行動についての理解を通して、野生動物の保全から産業動物（家畜）や伴侶動物（ペット）の飼育まで、人間社会と動物との関係性について学びます。生態系（植物）領域では、人間や動物などの生存基盤である植生全般について、植物の分類や生態についての理解を通して、森林環境保全、都市緑化、農業等の様々な分野を対象に、その理論と実際について学びます。物質循環領域では、化学的な方法を使って、河川の水質形成や土壌の生態系機能等の自然環境の仕組みや、重金属や農薬、栄養塩等による環境汚染について学びます。そして、人々の生存を支える食料やエネルギーといった資源を効率的に配分するための制度の一つである経済の仕組みを理解し、環境負荷の少ない経済システムについて学ぶため、また、自然環境を守るための社会制度、現地文化を踏まえた開発と生活について学ぶために、社会環境領域を配置しています。

4 領域を学んだ環境科学科の卒業生は、専門性や固定観念にとらわれない柔軟な思考能力の重要性を理解し、将来専門的な職に就いたとしても他の業種や職種の人々と常に協力しながら問題解決に臨むことができ、さらには、得られた知識を新しい世代に継承することもできる、幅広い分野で活躍する職業人となることが期待されます。また、環境科学科で学んだ専門知識を農学・環境学関連の大学院に進学してさらに深めることで、環境関連の研究者や技術職の公務員などの専門職に就くことも可能です。

環境科学科の特色

環境科学科の科目編成は、本学科の核となる科目を配置する自然・社会環境科目として、自然・社会環境共通科目、自然環境科目〔自然環境共通科目、生態系基本科目、生態系（動物）科目、生態系（植物）科目、物質循環科目〕、社会環境科目〔社会環境基本科目、社会環境基本科目以外の科目〕があり、その他に精神環境科目、歴史・文化環境科目、学部共通科目が配置されています。

自然・社会環境科目は1年次から4年次に修得します。この科目のうち、4領域のそれぞれの基礎となる科目は1年次に修得し、専門知識を修得させる科目は2年次と3年次に修得します。また、卒業論文のための演習科目を2年次から4年次に修得します。

自然・社会環境共通科目については、4年次に配置されている必修科目である「卒業論文」の作成のための知識と技術を修得するための演習科目として、「学術論文講読Ⅰ」、「学術論文講読Ⅱ」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」の6科目が2年次から4年次に配置されており、本学科の必修科目です。また、野外や学外での実習を目的とする実習科目として、「森林管理実習A/森林管理実習」、「森林管理実習B/共同フィールドワーク」、「地域連携ワーク」、「地域課題解決実習」、「農業基礎実習Ⅰ」、「農業基礎実習Ⅱ」、「海洋ダイビング実習」、「潮間帯リサーチ入門」、「エコ・フィールド社会実習」、「動物園・水族館実習」、「水族館展示実習」、「インターンシップ」の12科目と、さらに「海と川の生物学入門」、「環境昆虫学」、「データサイエンス概論」、「社会調査概論」、「ソーシャルリサーチ&プランニング」、「環境情報と社会」、「農業・情報キャリア論」、「環境と多文化共生」の講義8科目が1年次から3年次に配置されており、これらは選択科目です。

自然環境科目については、生態系（動物）と生態系（植物）と物質循環との3領域の全てにおいて必要となる科目群として、自然環境共通科目である「環境リスク概論」、「基礎数学」、「自然地理学」、「統計処理法」、「地理情報処理法」の講義5科目が1年次から3年次に配置されており、これらの領域を専攻した学生の必修科目です。

生態系（動物）と生態系（植物）との2領域において必要となる科目群として、生態系基本科目である「生態系の機能と社会」、「環境と生物の進化」、「基礎生物学」、「緑化・栽培概論」、「植物生態学」、「動物生態学」、「生物多様性」の講義7科目と、「緑地・植物基礎実習」、「動物基礎実習」の実習2科目が1年次と2年次に配置されており、これらの領域を専攻した学生の必修科目です。

生態系（動物）と生態系（植物）と物質循環との3領域のそれぞれに特化した科目群を生態系（動物）科目と生態系（植物）科目と物質循環科目とし、これらは1年次から3年次に配置されており、それぞれの領域を専攻した学生の必修科目です。生態系（動物）科目には、「動物行動学」、「野生動物保全学」、「人間動物関係学」の講

義3科目と、「動物学実習」の実習1科目とが配置されています。生態系（植物）科目には、「植物形態・分類学」、「緑地管理学」の講義2科目と、「植物学実習」、「緑地学実習」、「栽培学実習」の実習3科目（このうち指定された2科目を履修）とが配置されています。物質循環科目には、「地球環境の化学像」、「物質循環とエネルギー」、「水環境での物質循環」、「森林と土壌環境での物質循環」、「土壌圈保全論」、「生態毒性」の講義6科目と、「基礎化学実験Ⅰ」、「基礎化学実験Ⅱ」、「環境化学実験Ⅰ」、「環境化学実験Ⅱ」の実習4科目とが配置されています。

社会環境科目については、環境保全に配慮した経済社会に関する専門知識を修得するために社会環境基本科目である「現代社会と経済」、「企業会計Ⅰ」、「企業会計Ⅱ」、「経営学概論」、「経済学概論」、「環境経済学Ⅰ」、「環境経済学Ⅱ」、「環境経営」、「現代企業論」、「金融」、「財政」、「国際協力論」、「環境と開発」、「地域経済」、「環境法制」、「経営分析」、「エネルギーと文明史」、「環境政策」、「産業構造論」の講義19科目が1年次から3年次に配置されており、この領域を専攻した学生の必修科目です。

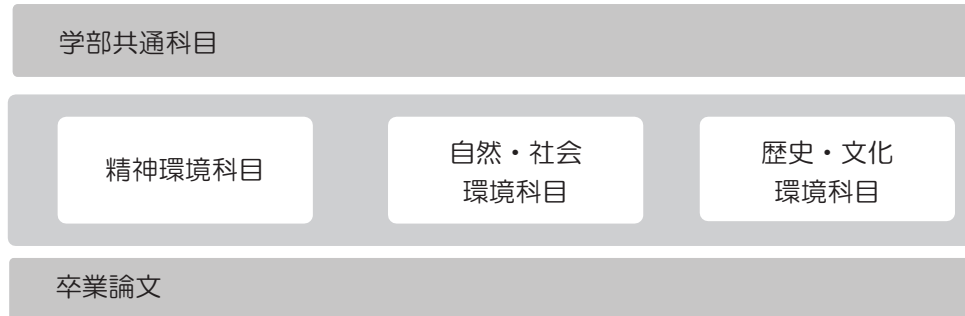
社会環境基本科目以外の社会環境科目として、環境保全に配慮した経済社会に関する幅広い知識を修得するために、「環境倫理」、「ゲーム理論」、「社会調査法Ⅰ」、「社会調査法Ⅱ」、「簿記論Ⅰ」、「簿記論Ⅱ」、「環境思想」、「経済学史Ⅰ」、「経済学史Ⅱ」、「ソーシャルビジネス論」、「環境社会学」、「水と緑の政策」の講義12科目が1年次から3年次に配置されており、これらは選択科目です。

精神環境科目は1年次から3年次に、また歴史・文化環境科目は1年次と2年次に配置されており、どちらも選択科目です。人間環境学、及び大学での学びの基盤となる学部共通科目は、1年次に修得します。

4.人間環境学部の教育システム

教育課程

人間環境大学の教育理念に基づき本学の教育課程は、以下のような基本的構造をもって組み立てられています。



学部共通科目

本学では、各学科に属する授業科目群の他に、全学科に共通する「学部共通科目」を置いています。学部共通科目は、専門的な科目を履修するために是非学習しておかねばならない科目群のことです。

学部共通科目は、以下の科目が必修となります。

基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ（各2単位）

キャリアデザイン（2単位）

人間環境学（2単位）

英語Ⅰ、Ⅱ（各2単位）

情報実習Ⅰ、Ⅱ（各1単位）

基礎ゼミナール

基礎ゼミナールの担当教員は、教学面だけではなく学生生活全般の相談にもなります。本ゼミナールを通して有意義な学生生活をスタートさせてください。

卒業に必要な履修単位

心理学科

本学を卒業するためには、以下に示す必要単位を含め126単位以上を修得する必要があります。

学部共通科目 (14 単位以上)

人間環境学	(2 単位)
基礎ゼミナール I・II	(各 2 単位)
英語 I・II	(各 2 単位)
情報実習 I・II	(各 1 単位)
キャリアデザイン	(2 単位)

精神環境科目 (22 単位以上)

心理学基礎科目 必修科目含め (6 単位以上)

基礎心理学関連科目	(2 単位以上)
発達・教育心理学関連科目	(4 単位以上)
社会・産業心理学関連科目	(4 単位以上)
臨床心理学関連科目	(4 単位以上)
隣接関連科目	(2 単位以上)

実習・演習科目

自然・社会環境科目 (8 単位以上)

歴史・文化環境科目 (8 単位以上)

総合演習 I・II・III・IV 卒業論文 (14 単位)

環境科学科

本学を卒業するためには、以下に示す必要単位を含め126単位以上を修得する必要があります。

学部共通科目 (14 単位以上)

人間環境学	(2 単位)
基礎ゼミナール I・II	(各 2 単位)
英語 I・II	(各 2 単位)
情報実習 I・II	(各 1 単位)
キャリアデザイン	(2 単位)

自然・社会環境科目 (68 単位以上)

自然・社会環境共通科目 必修科目含め(12 単位以上)

自然環境科目、社会環境科目 (a~d のいずれかを選択) (56 単位以上)

a	自然環境共通科目	(12 単位以上)
	生態系基本科目	(18 単位以上)
	生態系(動物)科目	(8 単位以上)
	社会環境科目	(12 単位以上)
b	自然環境共通科目	(12 単位以上)
	生態系基本科目	(18 単位以上)
	生態系(植物)科目	(8 単位以上)
	社会環境科目	(12 単位以上)
c	自然環境共通科目	(12 単位以上)
	物質循環科目	(28 単位以上)
	社会環境科目	(12 単位以上)
d	自然環境科目	(8 単位以上)
	社会環境基本科目	(38 単位以上)

精神環境科目 (8 単位以上)

歴史・文化環境科目 (8 単位以上)

卒業論文 (6 単位)

5.学年度と授業について

学年度とは

学年度は前期と後期の2期に分かれています。前期は4月1日に始まって9月15日に終わり、後期は9月16日に始まって3月31日に終わります。

なお、当該年度の年間行事予定表および学年暦は毎年作成され、『履修の手引き』に掲載しています。

授業時間割について

卒業所要単位の修得に必要な授業科目のうち、当該年度に開講される科目を網羅した授業時間割が、毎学年度はじめに編成され告知されます。

授業は前期・後期を通じて月曜日から金曜日まで以下の授業時間帯で行われます。授業時間割の中から、各自の年次、クラス、学科に応じて、授業科目を履修することになります。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10～10:40	10:50～12:20	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

授業期間の種類について

- (1) 「通年授業」…1年間通じて開講される授業
- (2) 「半期授業」…前期または後期に開講される授業
- (3) 「隔週授業」…1週おきに開講される授業
- (4) 「集中授業」…夏季休業期間（8月～9月）や冬季休業期間（12月）またはそれ以外の期間を利用してまとめて開講される授業

集中講義の留意事項

- ・日程の重複している授業は同時に履修することはできません。
- ・集中講義は原則として1時限～4時限まで連続して授業を行います。
- ・P41以降のカリキュラム表の曜日・時限欄に「集中」と記載されている授業科目については、履修登録の際に同表備考欄の開講日を必ず確認してください。

授業に関する留意事項

1. いずれの授業も授業回数の3分の2以上の出席が必要です。欠席回数が3分の1を越える者は定期試験受験資格を失うことになります。
*履修や出席状況等、必要に応じて保護者の方へ連絡することがあります
2. 「公欠」（忌引も含む）により、やむを得ず授業を欠席する場合は、原則として欠席の理由及び期間が記載された書類及び「欠席届（公欠願）」又は「忌引願」を教務課まで提出してください。「公欠」以外での欠席は理由のいかんにかかわらず欠席となります。この場合特に授業の欠席を教務課に届ける必要はありません。
3. 「暴風警報発令時」や「交通機関のストライキ」等の場合の授業の取り扱いについてはP88～P90の「人間環境大学 授業に関する規程」及びその別表1) および別表2) を参照してください。
4. 上記規程に記載の市町村以外の居住地に暴風警報が発令中の場合は、警報解除後なるべく早く出校してください。
5. 公共交通機関の障害で受講できなかった場合は、原則として延着証明を持参してください。
*公共交通機関の不通・遅延時の対応については、大学に届け出ている通学区間が対象です。
公欠申請時には、電車・バスの降車時に配布される延着証明書（遅延証明書等名称が異なる場合があります）が必要となりますので、必ず降車駅またはバスの運転手から受け取るようにしてください。
なお、延着証明書には日付と遅延時間の記載が必要です。鉄道会社や駅等により様式は異なりますの

で、記載されていない場合は係員の方に記載をお願いしてください。また、公共交通機関各社のHP上でも延着証明書が確認できますが、こちらは学生がその公共交通機関に乗車していた証拠にはなりませんので、本学では受理できません。

公欠

次に該当する事由により授業を欠席し、必要書類を提出した場合はこれを公欠として取り扱います。詳しくはP88～P90「人間環境大学 授業に関する規程」を参照してください。

- ①「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」にもとづき裁判員の任務を果たす場合（学部長の承認が必要）
- ②「学校保健安全法施行規則」第18条に定められた感染症による社会的影響を考慮して、大学が出校停止を命じた場合（学部長の承認が必要）
- ③天災・事故等による公共交通機関の運休又は遅延（第3条の暴風警報の解除、第4条の警戒宣言等の解除、第5条のストライキの終了後も続く公共交通機関の運休又は遅延、及び第3条の暴風警報の解除後も居住地域で暴風警報が解除されないことによる公共交通機関の運休又は遅延を含む）によって授業を欠席した場合。
- ④忌引きの場合（学部長の承認が必要）
- ⑤その他、特に本学が必要と認めた公の行事に参加する場合（教授会での承認が必要）

《備考》

- ・集中講義については、単位認定に必要な授業時間数の関係で公欠扱いとならない場合があるので注意すること。
- ・公欠は、授業担当教員による補講への参加や、与えられた課題等を提出し受理される等により、公欠を許可された期間を出席扱いとすることができる。課題の場合には公欠申請を受理した日から起算して2週間以内に提出すること。
- ・公欠扱いを受けようとする者は、上記①③⑤の場合は事前に所定の「欠席届（公欠願）」及び期間が明記された「受入先からの正式書類」もしくは公共交通機関の「遅延証明書（遅延時間の記載のあるもの）」（※但し、近畿日本鉄道のみ「Web遅延証明書・ICカード利用履歴もしくは定期」）、②の場合は所定の「欠席届（公欠願）」及び期間が明記された医師が作成した所定の「治癒証明書」又は「診断書」等、④の場合は所定の「忌引願」を務課に提出すること。公欠届は事由発生日から起算して2週間以内に提出すること。

忌引（忌引願は授業の有無に関係なく提出してください）

親族に不幸があったときは、次の基準を限度として忌引きを認めます。基準日数は葬儀の日を含み連続する期間とします。忌引きは公欠に準じて扱います。

1. 配偶者：	夫・妻	10日以内
2. 血族：	1 親等（両親・子）	7日以内
	2 親等（祖父母・兄弟等）	3日以内
	3 親等（曾祖父母・叔父叔母等）	1日以内
3. 姻族：	1 親等	3日以内
	2 親等および3 親等	1日以内

《備考》

- ・忌引扱いを受けようとする者は、所定の「忌引願」及び葬儀日が明記された書類を教務課に提出してください。

休講・補講について

休講

担当の先生が学会出張や病気などやむを得ない理由で授業を休講にすることがあります。このような場合には、担当教員から連絡があり次第、ポータルサイト掲示板により連絡しますので注意してください。なお、休講となった授業については、これを補うための補講を行います。

* 休講の掲示がなく、授業開始時刻を30分経過しても教員が出講しないときは、必ず教務課に連絡して指示を受けてください。

補講

休講などで、授業回数が不足するときなどは、補講を実施します。日程はあらかじめ掲示発表されるので、履修生は通常の授業と同様に受講してください。

* 補講は、12月24・25日の補講日または授業開講曜日の5時限終了後（18：10- 19：40）や水曜日の4・5時限目、土曜日の1・2時限目を利用して実施されます。また、教員が履修生と相談の上これ以外の曜日・時間帯になる場合もあります。

* 休講及び補講の連絡は、ポータルサイト掲示板にて行われますので、最低1日1回は確認してください。

6.単位制について

単位制

大学における教育課程は、「単位制」を採用しています。

大学設置基準では、「1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。」と定められています。この45時間には、授業での学習時間と授業外の自習時間の両方が含まれており、本学の教育課程では次のように定められています。

◆1単位の学習時間

授業の形態	授業での学習時間	授業外の自習時間	合計
講義・演習	15～30 時間	15～30 時間	45 時間
演習及び実験、演習及び実習	15～30 時間	15～30 時間	
実験・実習・実技	30～45 時間	0～15 時間	

本学では、1学年を前期と後期に分け、各学期の授業期間を15週間と定めています。また、90分の授業を1コマ＝2時間と計算しています。従って、それぞれの授業形態について受講生の1単位あたりの1週間の学習時間は次のようになります。

◆1単位あたりの1週間の学習時間（1学期15週で完結する場合）

授業の形態	授業での学習時間	授業外の自習時間	合計
講義・演習	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	3 時間 (1.5コマ)
実習及び実験、演習及び実習	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	
実験・実習・実技	2～3 時間 (1～1.5 コマ)	0～1 時間 (0～0.5 コマ)	

(学習時間の計算例)

たとえば、前期に20単位（講義16単位、実験・実習・実技4単位）を履修登録した場合、前期中に学修すべき時間は、

講 義	授業での学習時 $240 \text{ 時間} \text{ (16 単位} \times 15 \text{ 時間)}$	+	授業外の自習時 $480 \text{ 時間} \text{ (16 単位} \times 30 \text{ 時間)}$	=	720 時間
実験・実習・実技	$120 \text{ 時間} \text{ (4 単位} \times 30 \text{ 時間)}$	+	$60 \text{ 時間} \text{ (4 単位} \times 15 \text{ 時間)}$	=	180 時間
	↓		↓		
	<u>360 時間</u>		<u>540 時間</u>		

となります。

この場合、授業外の自習時間として540時間の学習が必要となりますので、前期が日曜・祝祭日も含めて18週間にわたり、126日（7日×18週）あると考えると、1日あたりに授業外で学修すべき平均時間は、

$$540 \text{ 時間} \div 126 \text{ 日} \div 4.3 \text{ 時間}$$

となります。

CAP制について

本学では、上記の単位制による1単位を修得するための学習時間をふまえ、1年間に履修登録できる上限単位※を「46単位」と定めています。これは、ほとんどの大学で設けられており、「CAP制」と呼ばれています。

むやみに科目数だけ多く登録しても勉強が追いつかずに単位が取得できないようなことが起こらないように、そして個々の科目の消化不良を防ぐためです。計画的な学習活動を行うために、本学の教育課程、卒業所要単位を『履修の手引き』の「3.人間環境学部の教育課程について」と「4.人間環境学部の教育システム」(P7～P13)でよく理解してください。

また、個々の授業科目の単位数は『履修の手引き』の「第II部 カリキュラム」(2024年度(令和6年度)版であればP41～P51)で確認してください。

※平成31年度(2019年度)以降入学生

- ・前年度GPAが3.50以上の場合、50単位まで履修登録が可能です。
- ・前年度GPAが0.70未満の場合、45単位までの履修登録しかできません。

平成30年度(2018年度)以前入学生

- ・前年度GPAが3.50以上の場合、50単位まで履修登録が可能です。

7. 学修計画と履修登録について

学修計画

高校の学修では基本的に全員が同じ時間割をこなすのに対し、大学の学修は自らの興味・関心や将来の進路の希望を踏まえて4年間の学修の目標を定め、カリキュラム（大学が学生のために用意した教育メニューのこと）のなかから、自分に適した時間割を作らなければなりません。

学修計画を立てるときの主な材料およびサポート

- ・『履修の手引き』（本誌）
開講授業科目一覧・・・在学中の全授業科目のうち当該年度開講科目を参照できる
- ・『コマシラバス』・・・各授業科目の内容が参照できる
- ・『授業時間割表』・・・当年度の開講授業科目とその時間割を参照できる
- ・サポート・・・年度当初のオリエンテーション時の履修ガイダンス、メンター教員等による指導・相談等

履修登録とは

履修登録とは、前期の始めに、各自が各学期に履修しようとする授業科目を選択し、登録する手続きのことです。コマシラバス、履修の手引き等を参考に、授業の履修計画を立てた上で、ポータルサイトで履修登録することにより登録を行います。なお、履修登録期間の最終日は17時00分が登録期限です。登録期間内に不都合が起きた場合には、その時点で教務課に申し出て下さい。また、登録後のポータルサイト上の時間割をプリントアウトし、必ず所持しておいて下さい。

下記の各事項に留意しながら、所定の期間内に履修登録を終了しなければなりません。

1. 所定の履修登録期間内に履修登録を完了しない者は、その学期の授業科目の履修および定期試験の受験は許可されません。
2. 所定の履修登録期間後の履修登録科目の変更・追加等は、原則として認められません。
3. 履修登録の修正が可能な期間を除き、履修登録した授業科目以外の科目を受講することはできません。
4. 授業科目によってはクラスを指定する場合があります。指定されたクラスのある場合はその指定に従って履修登録をしなければなりません。
5. 履修希望者が定員を超える場合、授業担当教員の判断により抽選などの方法により選出を行う場合があります。
6. 履修登録の確認、卒業要件の確認は、学生各自の責任のもとで行い、わからないことはメンター教員に相談してください。



履修登録の流れ

前期

履修登録の検討

○『履修の手引き』、『コマシラバス』、『授業時間割』を熟読し、メンター教員等と相談をしながら履修科目を検討する

履修登録期間

4月4日(木)～17日(水)17:00

○ポータルサイトにログインし、期間内に履修登録を完了させる

○前期科目、後期科目および通年科目を登録

○履修登録期間以降は、履修登録を行った授業のみに出席



履修登録修正期間

4月24日(水)～26日(金)17:00

○追加登録が認められない科目を除いて、この修正期間に履修登録の修正（追加・修正）が可能

※履修登録修正期間が終了すると、履修登録の内容が確定します



後期

履修登録修正期間

9月19日(木)～26日(木)17:00

○追加登録が認められない科目を除いて、この期間に履修登録の修正（追加・削除）が可能

○履修登録修正期間以降は、履修登録を行った授業のみに出席

○前期・後期を通じて履修登録単位数は原則として46単位を超えることはできない（P18「CAP制について」を参照）

履修登録のルール

- 1年間に履修科目として登録できる単位数は、原則として46単位を超えることができません（P.18「CAP制について」を参照）。
- 授業科目の配当年次について、各自が属する学年より下位の授業を履修することはさしつかえありませんが、各自が属する学年より上位の配当年次の授業を履修することはできません。
(例)
 - ・配当年次が1・2年次の授業を3年次生が履修する場合 → 可
 - ・配当年次が3・4年次の授業を2年次生が履修する場合 → 不可
- 基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ、英語Ⅰ、Ⅱなどクラスが指定されている場合は、指定クラス以外の授業を履修登録することはできません。
- 履修者を選定するにあたり抽選等の必要な科目にもかかわらず抽選等に参加しなかった場合は、その科目について当該年度の履修登録ができません。履修登録時には、抽選等の結果通りに正しく登録してください。
- 授業科目によっては、「Aを履修するためにはBを履修すること」「Ⅰを履修した後Ⅱを履修すること」といった履修条件を課している場合があるので、オリエンテーションやガイダンス等でよく確認しておいてください。
- 原則同一名称・同一科目コードの科目は、担当者等が異なっていても重複して履修することはできません。同一名称の授業で複数ある場合は、自分が履修すべきクラス、その授業コード、担当教員、曜日時限などを確認して履修登録を行ってください。
(例)「人間環境学」の場合
HE010(科目コード)+01(クラスコード)=HE01001(授業コード)
- 過年度に単位を修得した同一名称の科目は、担当者等が異なっていても再度履修登録することはできません。
- 同一年度の同一曜日・時限に2科目以上を履修登録した場合は、履修登録修正により二重登録状態を解消しなければ両科目の履修登録とも無効になります。
- 履修登録許可の通知は行ないません。不許可の科目のみ掲示等により連絡します。
 - ・履修登録のルールに違反している場合には、履修登録不許可となります。
 - ・開講予定科目がやむを得ない理由で、不開講となる場合には、履修登録不許可となります。
- 履修希望者が少数の場合は不開講となる場合があります。
- 特定の科目に履修希望者が集中した場合、卒業年次生・上級年次生の優先、教室配当の調整、担当教員の手配などの措置の結果、次のことが生じる場合があります。予めご了承ください。
 - ① 担当教員の変更
 - ② 曜日・時限の変更
 - ③ 希望科目の履修登録ができない
- 別に実験・実習・教材費等の必要な科目で所定の期日までに納入がない場合は、その科目の履修登録は無効となり、履修登録は削除されます。
- 3、4年次に開講される演習科目を履修するためには、前年度までに40単位以上を修得しておく必要があります。
- 3、4年次に開講される演習科目は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順番で修得することとし、同時に、または飛び越えて履修することはできません。
- 履修登録時のポータルサイト上での操作ミスや、履修登録の期限に遅れたことなどから生じる不利益は学生本人の責任となります。

履修登録内容の確認

ポータルサイトの「履修登録」メニューから確認のうえ、「印刷する」ボタンより必ず履修登録内容をプリントアウトし保管してください。履修登録時にエラーメッセージが表示された場合は正しく履修登録されませんので、内容を確認してください。

また、エラーが出ていなくても、選択間違い等により意図しない授業科目が履修登録されている場合があるため、履修登録内容をしっかりと確認してください。

ポータルサイト
人間環境大学

TOP 掲示板 履修登録 ログアウト

掲示板

- 履修登録
- 要件を確認する

個人へのお知らせ

連絡事項

授業関連

履修情報

- 履修登録
- 出席状況
- レポート提出
- 成績確認

後期

印刷する

	月	火	水	木	金	土
1限				HC10001 言語表現論 岡 良和 221大講義室		
2限	HE02102 基礎ゼミナールⅡ 藤高 恵 515講義室	PS10201 心理学統計法 吉武 久美 221大講義室			PS50001 臨床心理学概論 田中 史子 221大講義室	
3限		HC10601 日本の言語芸術と文化Ⅱ 花井 しおり 221大講義室	ES70301 経営学概論 新谷 あや子 221大講義室		HE07105 英語Ⅱ 三浦 孝 512教室	
4限	PS30101 発達心理学 丸山 宏樹 411大教室	HC10201 日本美術文化論Ⅱ 菅原 太 221大講義室		ES70201 企業会計Ⅱ 磯貝 明 221大講義室	HE05105 情報実習Ⅱ 藤原 真澄 526PC教室	
				HE07901 中国語Ⅱ 渡 昌弘 512教室		
6限						
7限						

▼時間割外の授業
授業の申請はありません。

履修登録内容が確認できます

履修登録内容や修得単位数が確認できます

《エラーメッセージ例》

1. 履修登録上限単位をこえています。
2. 既に登録されている科目です。
3. 曜日・時限が重複しています
4. 所属が異なるため登録できません。
5. 履修登録に必要な科目の単位が修得されていません。
6. 取消のみ許可されている科目です。

《エラーの出ない履修登録ミスの例》

- ・意図しない科目を選択し、別の科目が履修登録された。
- ・抽選科目、クラス指定科目を許可された者以外が履修登録した。
- ・期間が重複している集中講義科目が履修登録された。

【単位修得状況】欄の見方

<履修登録印刷用ページ>

【後期】

	月	火	水	木	金	土
1限				HC10001 英語表現論 岡 良和 221大講義室		
2限	HE02102 基礎ゼミナールⅡ 蔵高 亜 515演習室	PS10201 心理学統計法 吉武 久美 221大講義室			PS50001 臨床心理学概論 田中 史子 221大講義室	
3限		HC10601 日本の芸術技術と文化Ⅱ 花井 しおり 221大講義室	ES70301 経営学概論 新谷 あや子 221大講義室		HE07105 英語Ⅱ 三浦 孝 512教室	
4限	PS30101 発達心理学 丸山 宏樹 411大教室	HC10201 日本美術文化論Ⅱ 豊原 太 221大講義室		ES70201 企業会計Ⅱ 磯貝 明 221大講義室	HE05105 情報実習Ⅱ 藤原 真澄 526PC教室	
5限				HE07901 中国語Ⅱ 渡 昌弘 512教室		
6限						
7限						

区分ごとの卒業までに必要な単位数

カリキュラムの科目区分

既に修得している単位数

卒業要件を満たすために必要な残り単位数

【卒業要件】

分野区分	要件単位数	修得単位数	不足単位数	履修中
【基礎+専門会計】	126	46	80	
《学部共通科目》	14	18		
《精神環境科目》	22	12	10	
《自然・社会環境科目》	8	6	2	
《歴史・文化環境科目》	8	10		
《総合演習・卒業論文》	14		14	

現在履修登録をしている単位数

履修登録の修正について

履修登録内容を修正（追加・削除）する場合は、履修登録同様に履修登録修正期間内にポータルサイト上で行ってください。

なお、原則として46単位制限を越えて追加登録はできません（P18「CAP制について」を参照）。

履修登録修正期間の最終日は17時00分（土曜日の場合12時30分）が登録期限です。なお、不都合が起きた場合には、その時点で教務課に申し出てください。また、履修登録修正後のポータルサイト上の時間割をプリントアウトし必ず所持しておいて下さい。

履修登録を修正する際のルール

1. ポータルサイト上でエラー表示がある場合、履修登録の修正が必要です。
2. クラス指定科目においては、指定されたクラス以外への変更はできません。
3. 履修登録修正期間後の履修登録の修正には一切応じられません。
4. 履修登録修正期間に修正を行わなかった授業については、ポータルサイト上に掲載されている通り履修登録が完了したことになります。
5. 実験・実習・教材費等の未納により履修登録が削除された科目の単位は、1年間に履修登録ができる上限単位（46単位）の一部として算入されます（合わせてP18「CAP制について」を参照）。

《修正時のチェック》

- 授業コードは正確ですか？
- 追加する場合、その曜日・時限に既に履修登録されている科目は削除しましたか？
- 定員が設けられている授業の場合、定員内であるか確認済みですか？
- （後期の場合）修正しているのは後期開講科目だけですか？

履修登録取消制度

履修登録取消制度は、履修登録完了後（履修登録修正期間後）に期間を定め、履修登録した科目を取り消す制度で、履修登録をして授業に出たものの

- ① 授業の内容が自分の勉強したいものと違っていた
- ② 授業に対する知識が不足していることに気づいた
- ③ 履修科目数を減らしたい

などといった理由から履修登録を取り消すことができる制度です。履修登録を取り消すためには、年間行事予定表で定められた期間内に教務課にある所定の用紙で取り消しの手続きを行ってください。

この期間内に履修登録取消の手続きを行った科目は、1年間の履修登録上限単位及びGPA（GPAについてはP28を参照）の算入対象とはなりません（履修登録の取り消しを行わないまま授業放棄をするとGPAの値が下がり、奨学金継続の可否などに影響します）。

《履修取り消しに関するスケジュール》

5月6日(月)～10日(金) 17:00 : 前期履修登録取り消し期間

10月4日(金)～10日(木) 17:00 : 後期履修登録取り消し期間

* 通年科目は前期履修取り消し期間中にのみ取り消すことができます。

教科書について

履修登録する授業の教科書を、教務課で配布される「教科書販売リスト」を参考に前期は4月中、後期は9月中に指定された場所等で教科書を購入してください（販売期間終了後は返品をするため入手が困難になりますので早めに購入して下さい）。一部教務課で販売するものもあります。また、必要に応じて各自で書店やオンラインにて購入をしていただいても構いません。

8. 試験について

試験には、定期試験・追試験・再試験があります。また、試験に代わるものとしてレポートが課される場合もあります。

定期試験

定期試験は、前期、後期それぞれ年間行事予定表で定める定期試験期間に行なわれます。

平常授業と教室が異なることがありますので、定期試験期間の約1週間前にポータルサイトに掲示される試験時間割には、十分注意してください。

同一科目で複数クラスがある場合、履修登録したクラスの試験を受験しなければなりません。

受験資格

次のいずれかに該当する者は受験資格がありません。

1. 欠席時数が授業時間数の3分の1を超える者
*履修や出席状況等、必要に応じて保護者の方へ連絡することがあります
2. 授業料等納付金を納入していない者
3. 履修登録をしていない者
4. 履修途中で受講を辞退した者
5. 出席確認において不正行為を行った者

*試験受験後に上記事項に該当することが判明した場合、当該科目の成績は判定しません。



受験上の注意

学生証を持参していない場合は受験できません。その他受験上の注意事項は『学生便覧』の「試験」の項および「試験規程」をよく読んで必ず確認しておいてください。

*試験当日に学生証を忘れた者は試験前に教務課で仮学生証を発行してもらってください。

追試験

病気や忌引き、その他交通機関の不通など、下記に示すやむを得ない理由で定期試験を受験できなかった人が、指定された期日までに「追試験願」を提出し、許可された場合に実施される試験です。詳細は『学生便覧』の「試験規程」を確認してください。

1. 暴風、大雨その他災害により受験することができなかった場合
2. 交通機関の不通、又は延着による場合
3. 傷病により受験できない場合
4. 公欠（忌引も含む）、又はそれに準じる場合
5. 特別の事情がある場合で、教授会で承認された場合

*医師の診断書、交通機関の延着証明など、その日時に受験が困難であった理由が分かる証明書類が必要です。

*追試験による成績は90点（S評価）を最高とします。

*追試験には所定の受験料が必要となります。

再試験

卒業予定年次に履修し不合格（D判定）となった科目のうち8単位以内を修得すれば卒業資格が与えられる場合に限って、教授会の議を経て再試験を認める場合があります。詳細は『学生便覧』の「試験規程」を確認してください。

*再試験による成績は60点（C評価）を最高とします。

*再試験には所定の受験料が必要となります。

レポートの提出について

レポート試験の場合には原則、ポータルサイトのレポート提出システムで提出します。ただし、科目によりレポート提出方法が異なる場合がありますので、詳細は定期試験期間の約1週間前にポータルサイトに掲示される定期試験案内を確認してください。

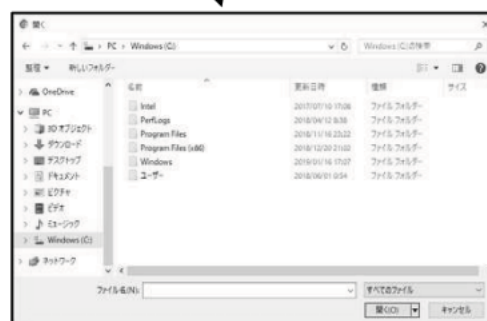
《ポータルサイトでの提出の場合》

- ①メニューから「レポート」をクリックします。
- ②アップロードの「ファイルを選択」よりファイルをアップロードしてください。
*複数のファイルの場合は、1つのZipファイルにまとめてアップロードしてください。
- ③「提出」をクリックします。
- ④提出状況に「完了」、提出日に提出した日時が表示されたことを確認してください。
- ⑤一度アップロードしたファイルはダウンロードし、ファイルの中身をよく確認してください。

提出期限後の差し替えは一切認められません。

*大学から支給されたメールアドレス (@uhe.ac.jp) に提出完了メールが届きますので、成績が発表されるまでは、大切に保管してください。

個人へのお知らせ	授業年度	授業CD	授業名	実施期	提出期日	提出状況	アップロード	ダウンロード	提出	提出日
連絡事項	2018	ES10201	学術論文講読 I	前期	2018/7/31	②	⑤	③		
授業関連	2018	ES11401	動物園・水族館実習	前期	2018/7/28	完了				2018/7/25
履修情報	2018	ES70101	企業会計 I	前期	2018/7/25	完了				2018/7/23



よくあるトラブル>

- ・1科目にアップロードできるファイルは1つのみ
- ・すでにアップロードしているにも関わらず、再度アップロードする場合は、前回のデータ(ファイル)は削除されてしまいますので、ご注意ください。
- ・複数のデータ(ファイル)をアップロードする場合は、zipファイルにしてください。

9. 成績評価について

成績評価基準

成績の評価は、定期試験、レポートなどによって授業科目ごとに行われます。成績評価基準は次の通りで、成績の評価は評価点および評語で通知されます。

評価点	可否等	評語	GP	評価基準
100～90点	合格	S	4.0	学習目標をほぼ完全に達している (Excellent)
89～80点		A	3.0	学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70点		B	2.0	学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)
69～60点		C	1.0	学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60点未満	不合格	D	0	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
試験欠席		E	0	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄		F	0	出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	認定	N	-	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

成績の発表

成績はポータルサイトにて通知します。前期の成績は9月中旬、後期の成績と通年科目の成績は3月上旬に通知します。

卒業年次生の成績は3月上旬の卒業予定者発表に合わせて通知します。

成績に関する問い合わせ

成績に関する質問は、科目担当教員へ直接問い合わせてください。また、自身の成績について疑問がある場合は、成績疑義申出期間内であれば、教務課にある「成績疑義申出書」にて申し出ることができます。それ以降の疑義は受け付けることができません。

成績疑義申出期間についてはポータルサイトにて成績発表時に告知します。

GPA(Grade Point Average)制度

GPA(Grade Point Average)制度は、成績評価に用いられた成績に対応したGrade Point(GP)を用い、履修した科目成績の平均値を出すものであり、アメリカの大学で一般的に行われている世界に通用する成績評価のシステムです。

このGPA制度によって、ただ卒業するのに必要な単位を取得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としてこの制度を導入しています。また、GPAは卒業までの様々な選考の判断基準となるので、各自のGPAを常に意識し、学習計画を立ててください。

GPAの算出方法

履修登録した科目ごとの5段階評価を、4から0までのGPに置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割って算出します。

$$\text{GPA} = \frac{(4.0 \times \text{Sの単位数}) + (3.0 \times \text{Aの単位数}) + (2.0 \times \text{Bの単位数}) + (1.0 \times \text{Cの単位数})}{\text{履修登録単位数}}$$

(GPAの実際の計算例)

科目名	単位数 (a)	評価点	評語	GP (b)	a×b
〇〇〇〇学	2	92	S	4.0	8
〇〇〇〇論	2	85	A	3.0	6
〇〇〇学I	2	55	D	0	0
□学研究法I	2	70	B	2.0	4
□学研究法II	2	62	C	1.0	2
△△基礎実習	4	0	A	3.0	12
合計	14				32

上記成績の学生の場合、

履修登録した授業科目の単位数の合計=14

(履修登録した授業科目の単位数×当該授業科目のGP)の合計=32

$$\text{GPA} = \frac{32}{14} = 2.29$$

となります。

* 計算式の分母には不合格科目を含め、履修登録した全ての科目の合計単位数であることに注意してください。

GPAの算定対象とならない科目

- ・ 成績の評価点が認定となる科目 (単位互換履修科目等)
- ・ 定められた期間に履修登録取り消しの手続きをした科目
- ・ その他、卒業要件に算入されない科目

成績証明書への記載内容

成績証明書には、合格科目についての評語のみが記載されます。

GPAによる学生へのフォローアップ

1つの学期GPAが2.2未満となった学生は、本人を呼び出しメンターや演習担当教員による注意と指導を行います。

10. 卒業論文・学位について

卒業論文関連のスケジュール

卒業年次生（4年次生）は、学年暦で定められた時期に卒業論文を提出する必要があります。卒業論文関連の手続は全て教務課にて行ってください。なお、卒業論文関連のスケジュールは下記の通りです。

2024年	4月4日(木)～4月17日(水)	：卒業論文の履修登録期間
	4月24日(水)～4月26日(金)	
	12月2日(月)	：卒業論文受付開始
2025年	1月8日(水)	：卒業論文提出期限 *時間厳守17:00
	2月3日(月)～2月10日(月)	：卒業論文口頭試問期間

卒業論文の提出方法・論文審査

卒業論文を提出する際には、次の提出方法を厳守してください。

1. 提出期限・時間を厳守してください。期限及び時間を過ぎた卒業論文は一切受理しません。また、郵送による提出は一切受け付けません。
2. 「卒業論文提出票」は、本学ホームページの下記URL から指定のフォームにアクセスし、必要事項を入力・送信することにより発行されます（必ず大学のMicrosoft アカウントを使用してください）。フォームに入力した内容が反映された「卒業論文提出票」がUHE メールに届きますので、印刷をして、次項を参照の上、取り扱ってください。「卒業論文提出票」の発行期間は、12月1日～1月上旬頃の予定です。（詳細はポータルサイトに掲示します。）

<https://www.uhe.ac.jp/campus/board.html>（「人間環境大学HPトップページ」→「在学生の方」→「在学生専用ウェブサイト」→【学部】提出物付票ダウンロードの「卒業論文提出票・受付票」からアクセスすることができます。）

※フォームが開けないなどのシステムトラブルの際は速やかに教務課へ連絡してください。

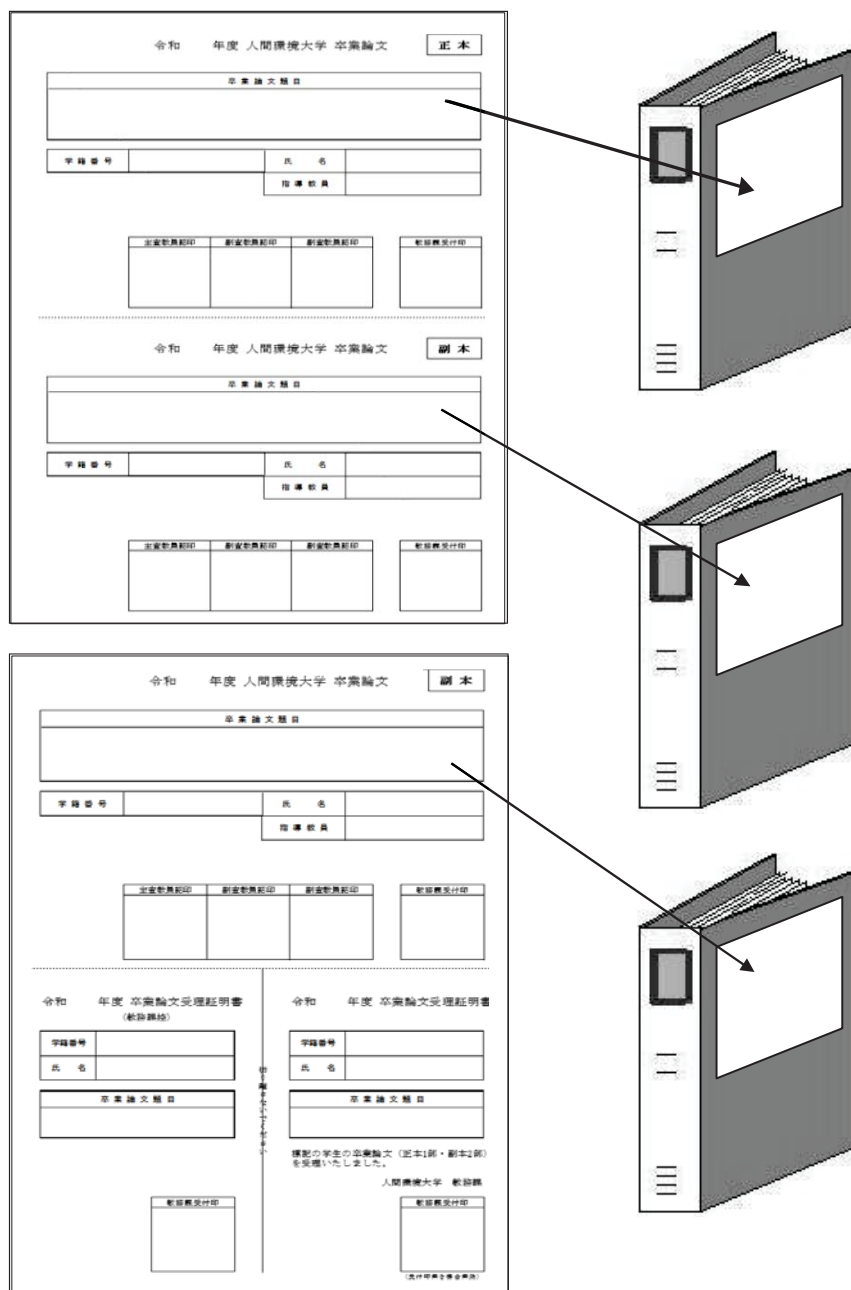
3. 卒業論文は、市販のA4版フラットファイルに綴じ、フラットファイルの表には、卒業論文表紙をそれぞれ（3部ともに）貼付してください。（次頁図参照）
4. 卒業論文提出と引き換えに、「卒業論文受理証明」および「口頭試問日時通知」を受取ってください。「卒業論文受理証明」は、成績が出るまで大切に保管してください。受付印の無いものは無効です。
5. 卒業論文提出後は、訂正、追加、差し替え等の変更は一切認められません
6. 学生便覧の「卒業論文に関する取扱規程」を必ず確認しておいてください。

*卒業論文の書き方、内容等の詳細については、担当教員の指示に従って下さい。

卒業論文提出票の取り扱い方法

卒業論文表紙

- * 正本1部と副本2部、それぞれフラットファイルの表紙に貼り付けてください。
- * 「卒業論文提出票」は、本学ホームページの下記URL から指定のフォームにアクセスし、必要事項を入力・送信することにより発行されます（必ず大学のMicrosoft アカウントを使用してください）。フォームに入力した内容が反映された「卒業論文提出票」がUHE メールに届きます。
- * A4 版フラットファイルは学内売店でも購入できます。



卒業論文受理証明書

- * 2つは切り離さずに、卒業論文と共に教務課へ提出してください。

学位について

4年以上（8年を最長とする〔2年次編入生は3年以上、7年を最長とする。3次年編入生は2年以上、6年を最長とする。〕）在学し、所定の単位を修得した者に対して学位記を授与し、心理学科は「学士（心理学）」、環境科学学科は「学士（環境科学）」の学位を授与します。

1 1. 各種単位互換履修生制度について

単位互換履修生制度とは

単位互換履修生制度とは、大学間の交流と協力を促進し、それぞれの大学の教育内容の充実を図ることを目的として、単位互換協定を締結した大学に所属する学部学生が、所属する大学以外の協定大学の授業科目を履修し、修得した単位をその学生の所属する大学の単位として認定する制度です。

この制度により、多岐にわたる授業科目の履修が可能となり、皆さんの関心や興味に応じて、それぞれの特色ある授業科目や、本学にはないユニークな授業科目を履修することができます。

「自分の大学では学べない分野や内容について学んでみたい」「他大学の授業を受けることで広い考え方や見方を身につけたい」と思っている方はぜひチャレンジしてみてください。

海外大学単位互換履修制度

この科目は、本学と海外の大学が結んだ単位互換協定にもとづいて実施されるものです。この協定により、協定を結んだ双方の大学に在籍する学生は、各大学が開設する単位互換履修生制度対象の科目を履修して所定の試験に合格した場合は単位を取得することができます。

この制度により履修した科目の単位は、『学部共通科目』の単位として位置付けられます。ただし卒業要件に必要な「学部共通科目 14 単位」は、本学開設科目で履修してください。

調査・研究によって知識を深めるだけでなく、異文化を背景に持つ外国人学生と活動をとるとともに、外国人学生の本学における学修活動を支援することを通して、広い視野、自主性、リーダーシップ、責任感を備えた国際人を育成することを目的とします。

この授業については、履修登録期間中には登録は行わず、事前説明会を行った上で、別途期間を定め履修登録を行います。詳細については、コマシラバスを確認してください。

- 【参加条件】 1. 責任ある態度で主体的かつ積極的な参加ができること。
2. 異文化交流に関心がある者。
3. インターネットでの交信が可能なこと。（学内PC利用も含む）

【受講料】 事前説明会の時に詳細について説明します。

【成績】 修得した単位は、年度末に下記の名称で成績表に記載されます。

※学部共通科目の単位として算入することができます。

科目名称	単位数
海外大学単位互換科目Ⅰ	2
海外大学単位互換科目Ⅱ	1

【その他】 事前説明会については別途掲示で連絡します。

海外からの学生が来日しないなど交流行事そのものが実施されない場合、本科目は不開講となります。

愛知学長懇話会単位互換履修生制度

愛知県内全ての4年制大学が加盟する愛知学長懇話会で締結された「単位互換に関する包括協定」により、加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される様々な科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。

この制度により履修した科目の単位は、『学部共通科目』の単位として位置付けられます。ただし卒業要件に必要な「学部共通科目 14 単位」は、本学開設科目で履修してください。

本学での学修に支障の出ることのないよう、履修計画を良く考えた上でお願いしてください。ただし、出願した科目が全て受講許可になるとは限りません。受け入れ先大学で選考が行われる場合もありますので注意してください。また、一旦申し込んだ後履修放棄すると授業運営上受け入れ先大学に多大な迷惑を掛けることとなります。よ

く考えた上で出願してください。

【履修対象】 2・3・4年次生

【受講料】 免除されます。但し、授業によっては実習費等別途納入が必要なものもあります。

【成績】 修得した単位は、年度末に下記の名称で成績表に記載されます。

※学部共通科目の単位として算入することが出来ます。

科目名称	単位数
単位互換履修生科目A－Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	各2
単位互換履修生科目B－Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	各4

【その他】 「募集要項」、「出願票」等詳細は3月下旬より教務課で配付します。出願期間が非常に短いため、希望者は早めに教務課にて確認してください。

1 2.取得可能な資格について

公認心理師

公認心理師とは、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、支援を行う心理職の国家資格です。公認心理師の受験資格の要件については、公認心理師法に定められています。

受験資格を得るには、大学で必要な科目を修め、かつ大学院で必要な科目を修めて修了することが必要です。また、大学で必要な科目を修め、かつ国で定められた施設において、定められた期間、定められた業務に就くという方法もあります。

平成30年度以降入学生でこの受験資格を得るためには、表1の科目を修得している必要があります。

資格の詳細や必要な科目の詳細については、厚生労働省ホームページ

(<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html>) を参照してください。

《表1 学部における公認心理師受験資格に必要な科目（平成30年度以降入学生）》

No	公認心理師資格取得に必要な科目	人間環境大学での授業科目
1	公認心理師の職責	公認心理師の職責
2	心理学概論	心理学概論
3	臨床心理学概論	臨床心理学概論
4	心理学研究法	心理学研究法
5	心理学統計法	心理学統計法
6	心理学実験	心理学実験法（心理学研究Ⅱ）
7	知覚・認知心理学	知覚・認知心理学
8	学習・言語心理学	学習・言語心理学
9	感情・人格心理学	感情・人格心理学Ⅰ（感情心理学）※ 感情・人格心理学Ⅱ（人格心理学）※
10	神経・生理心理学	神経・生理心理学
11	社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学
12	発達心理学	発達心理学
13	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学
14	心理的アセスメント	心理的アセスメント
15	心理学的支援法	心理学的支援法（カウンセリング心理学）
16	健康・医療心理学	健康・医療心理学
17	福祉心理学	福祉心理学
18	教育・学校心理学	教育・学校心理学Ⅰ（教育心理学）※ 教育・学校心理学Ⅱ（学校心理学）※
19	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学
20	産業・組織心理学	産業・組織心理学Ⅰ（産業心理学）※ 産業・組織心理学Ⅱ（組織心理学）※
21	人体の構造と機能及び疾病	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）
22	精神疾患とその治療	精神医学概論（精神疾患とその治療）
23	関係行政論	関係行政論
24	心理演習	心理演習Ⅰ※ 心理演習Ⅱ※
25	心理実習	心理実習

※については、それぞれ、Ⅰ・Ⅱの両方を履修すること

認定心理士

認定心理士とは、心理学の専門家として仕事をするために必要な基礎学力と基礎技能を修得していることを公益財団法人日本心理学会が認定する資格です。この資格はあくまでも民間資格であり、国が法律に基づいて認める免許ではありません。この資格を取得する意義は、心理学の専門家として自己認識を持つことであり、医療・福祉・臨床現場で専門的な業務を行うための最低条件が揃っていることを示すことにあります。

この資格を取得するためには、表2の基礎科目 a, c 領域の開講科目すべての8単位とb領域から4単位以上を取得し、さらに、選択科目を24単位以上取得することが必要となります。

資格取得は原則として卒業後になりますが、要件を満たせば4年次に申請し仮認定として認められることもあります。資格申請の詳細については、公益財団法人日本心理学会ホームページ

(<http://www.psych.or.jp/qualification/index.html>) を参考にしてください。

《表2 認定心理士資格取得に関わる科目一覧（2019年度（令和元年度）以降入学生用）》

	領域	開講科目	認定単位
基礎科目	a 心理学概論	心理学概論 教育・学校心理学Ⅰ（教育心理学）	2 2
	b 心理学研究法	心理学統計法 心理学研究法 心理学データ解析	2 2 2
	c 心理学実験・実習	心理学基礎実験実習Ⅰ・Ⅱ 心理検査実習Ⅰ・Ⅱ	1・1 1・1
選択科目	d 知覚心理学・学習心理学	学習・言語心理学 知覚・認知心理学 感情・人格心理学Ⅰ（感情心理学）	2 2 2
	e 生理心理学・比較心理学	比較心理学 神経・生理心理学	2 2
	f 教育心理学・発達心理学	青年心理学 発達心理学 生涯発達心理学	2 2 2
	g 臨床心理学・人格心理学	心理療法論 感情・人格心理学Ⅱ（人格心理学） 障害者・障害児心理学 福祉心理学 司法・犯罪心理学	2 2 2 2 2
	h 社会心理学・産業心理学	社会・集団・家族心理学 対人関係論 産業・組織心理学Ⅰ（産業心理学） 産業・組織心理学Ⅱ（組織心理学） マスメディア心理学	2 2 2 2 2
その他	i 心理学関連科目、卒業論文・卒業研究	総合演習Ⅲ 総合演習Ⅳ	2 2

注1) 基礎科目 a, c は開講科目 4, 4 単位必修です。b 領域から 4 単位以上取得します。

注2) 選択科目 d から h の 5 領域のうち、3 領域以上で 4 単位以上、5 領域合計 16 単位以上取得します。

注3) 基礎科目、選択科目、その他の総計が 36 単位以上必要です。

注4) 上記の科目は、開講年度によって領域や科目名が変更される場合がありますので、日本心理学会のホームページに従って手続きをしてください。

なお、認定心理士（心理調査）は、心理調査に関連する専門科目を履修した認定心理士として位置づけられています。認定心理士（心理調査）の資格申請には、認定心理士の申請要件を満たしていることが必要です。

詳しくは公益財団法人日本心理学会のホームページ

(<http://www.psych.or.jp/qualification/index.html>) を参考にしてください。

《表3 認定心理士（心理調査）資格取得に関わる心理調査関係科目一覧（2019年度以降入学生用）》

	領域	本学開講科目	認定される 単位数
1 概論	心理調査概論・心理調査法	心理学研究法 社会調査概論	1 1
2 統計	心理学統計	心理学統計法	2
3 実践	発展／展開研究（実習）	総合演習Ⅲ・Ⅳ	4

注1) 1概論, 2統計で各領域2単位以上取得し, さらに, 3実践では卒業論文4単位分を申請します。ただし, 卒業論文の内容は, 調査・実験・観察・面接・尺度構成・検査などの方法を用いて, 自ら計画し, データの採取, 処理, 解析を行う内容に限ります。また, 3実践領域における卒業論文のみでの申請は2026年3月31日までの対応です。

注2) 3実践の認定には, 報告書の提出が義務付けられています。卒論研究の報告書は, タイトル・問題と目的・方法・結果・考察と展望・引用文献などからなるA4, 1枚で作成します。報告書の様式については担当教員に相談してください。報告書の内容によっては認定されない場合があります。

注3) 上記の科目は変更される場合がありますので注意してください。

2級ビオトープ管理士

ビオトープ管理士とは、自然と伝統が共存した美しく強靱な地域の創造を目指す技術者、端的に言えば、自然の保全・再生を任すことが出来る技術者です。最近では、エコロジカル・ネットワーク（エコネット）やグリーンインフラといった知識を活かして、まちづくりやくにづくりなどの広域的な視点から活動・提案を行っています。ビオトープ管理士には、地域の自然生態系の保護・保全、復元、創出の理念や、野生生物等の調査技術を踏まえた上で、専門性の異なる「計画部門」と「施工部門」の2部門があります。

ビオトープ計画管理士は、広域的な地域計画(都市計画、農村計画など)のプランナーが適合します。

ビオトープ施工管理士は、設計・施工にあたる事業現場担当の技術者が適合します。

人間環境大学人間環境学部環境科学科は、2級ビオトープ計画管理士および2級ビオトープ施工管理士の一部免除認定校に登録されています。この制度を利用すると、各試験科目について、択一問題の半分が免除されます。すなわち、解答しなければならない問題は、共通科目の択一問題は3科目それぞれにつき5問ずつの計15問、専門科目の択一問題は10問、それと小論文1問となります。

この制度を利用するためには、表4の「対応科目」に挙げられた自然・社会環境共通科目1科目2単位、生態系基本科目3科目6単位、生態系（動物）科目1科目2単位、生態系（植物）科目1科目2単位、社会環境基本科目2科目4単位全ての授業について、単位修得済みであるか、受験する年度内にその見込みがあることが必要となります。単位修得見込みとしてこの制度を利用し、資格試験に合格した場合は、後日実施団体へ成績証明書を提出する必要があります。なお、「ビオトープ管理士資格試験 試験科目」に対応する「対応科目」は、各「ビオトープ管理士資格試験 試験科目」間で重複している科目があります。例として、授業科目として「植物生態学」を単位修得した場合は、「ビオトープ管理士資格試験 試験科目」の「生態学」「ビオトープ論」「計画部門」「施工部門」における、「対応科目」内の「植物生態学」を単位修得したと認められます。つまり、2級ビオトープ管理士資格一部免除認定校受験に関わる科目を全て単位修得した場合の総修得単位数は、2級ビオトープ計画管理士と2級ビオトープ施工管理士のどちらも16単位となります。

《表4 2級ビオトープ管理士資格一部免除認定校受験に関わる科目一覧》

ビオトープ管理士資格試験 試験科目		対応科目	単位数
共通科目	生態学	海と川の生物学入門	2
		植物生態学	2
		動物生態学	2
	ビオトープ論	植物生態学	2
		動物生態学	2
		緑地管理学	2
	環境関連法	環境法制	2
		野生動物保全学	2
		生物多様性	2
環境政策		2	
緑地管理学		2	
専門科目 ¹⁾	計画部門	環境法制	2
		植物生態学	2
		動物生態学	2
		環境政策	2
		緑地管理学	2
	施工部門	植物生態学	2
		動物生態学	2
		野生動物保全学	2
		緑地管理学	2

注1) 専門科目は、一度の試験でどちらか一方のみ受験できます。

環境再生医初級

環境再生医とは、「持続可能な社会を創るための知識や技術を持っている」ことを証明する資格です。通常は環境関連の実務経験が必要です。そのため学生で取得できるのは、認定校認可を受けた教育機関のみとなります。持続可能な社会には「自然環境を再生し共生するシステム」が必須であり、それを推進できる人材であることを示すことができます。持続可能な社会には、人間による環境負荷を最低化し、自然と共生し活かす地域・システムづくりが必要となります。そのため、人間環境大学においてその基礎を学んだ学生は、この資格とともに、これからの「持続可能社会を創る環境人材・SDGs人材」として活躍することが期待されています。なお、この資格は民間資格であり、国が法律に基づいて認める免許ではありません。

この資格を取得するためには、表5の「対応科目」に挙げられた学部共通科目1科目2単位、生態系基本科目2科目4単位、生態系（植物）科目1科目2単位、物質循環科目1科目4単位、社会環境基本科目4科目8単位全ての授業について、単位修得済みであることと、環境再生医「資格取得ガイダンス」のオンライン受講（注1）が必要となります。資格取得は、要件を満たせば3年次に申請し認められます。

《表5 環境再生医初級資格取得に関わる科目一覧》

必要項目	対応科目	単位数
① 地球環境問題・自然環境復元概論	生態系の機能と社会	2
	人間環境学	2
② 自然環境の再生	緑化・栽培概論	2
	緑地管理学	2
③ 資源循環・循環型社会の形成	現代社会と経済	2
	森林と土壌環境での物質循環	4
④ 環境教育・市民活動	国際協力論	2
	環境と開発	2
⑤ 環境行政・法令	環境法制	2

注1) 環境再生医「資格取得ガイダンス」のオンライン受講は、随時配信されます。ポータルサイトをご確認ください。

鳥獣管理士

鳥獣管理士とは、農作物被害、生態系被害、生活安全など、人と野生鳥獣の軋轢に関する地域課題の解決を担う技術者のことで、一般社団法人鳥獣管理技術協会が認証する民間資格です。

本学の環境科学科は、一般社団法人鳥獣管理技術協会による「JWMS認定プログラムⅠ」の認定校となっており、認定科目の単位の修得または環境科学科の修了等によって、鳥獣管理士資格試験（準1級、2級、3級）の受験資格が得られます。この制度を利用すると、通常、何十時間もの講習を受けなければ得られない鳥獣管理士資格試験の受験資格を得ることができます。在学中にこの制度を利用するためには、表6の「指定授業科目」に挙げられた科目のうち、受験を希望する級に必要な条件を満たし、申請期間に大学を通して申請する必要があります。

資格の詳細については、一般社団法人社会鳥獣管理技術協会のホームページ（<http://www.jwms.or.jp/>）を参考にしてください。大学への申請については学内の掲示板やポータルサイト等で告知します。

《各級の受験資格の条件》

- 鳥獣管理士（準1級）の受験資格： 環境科学科を修了しており（受験年度を含む過去3カ年間有効）かつ、鳥獣管理士2級または3級の認定を受けていること。
- 鳥獣管理士（2級）の受験資格： 指定科目の中から10単位以上を修得済みであること。
- 鳥獣管理士（3級）の受験資格： 指定科目の中から4単位以上を修得済みであること。

《表6 鳥獣管理士受験資格申請に関わる科目一覧（JWMS認定プログラムⅠ）》

認定機関名	学部・学科・コース名	指定授業科目名	科目の開設年度	単位数
人間環境大学	人間環境学部 環境科学科	生態系の機能と社会	2017	2
		環境と生物の進化	2017	2
		緑地・植物学基礎実習	2018	2
		植物生態学	2018	2
		動物生態学	2018	2
		動物学基礎実習	2018	2
		野生動物保全学	2019	2
		動物行動学	2019	2
		環境法制	2019	2
		地理情報処理法	2019	2
		生物多様性	2019	2
		環境社会学	2019	2
		環境政策	2019	2
		緑地管理学	2019	2
		緑地学実習	2019	2
動物学実習	2019	2		

甲種危険物取扱者

甲種危険物取扱者は、消防法で指定された全類の危険物について、取り扱いと定期点検、保安の監督ができる、国家資格です。危険物取扱者の資格には、甲種、乙種、丙種があります。その中で、甲種危険物取扱者が最上位の資格となります。

一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設には、危険物を取り扱うために必ず危険物取扱者を置かなければいけません。甲種危険物取扱者は、大学等において化学に関する授業科目を修め、必要な知識を有すると認められる者に受験資格が与えられます。本学学生が受験資格を得るためには、表1に挙げられた自然環境共通科目1科目2単位、物質循環科目9科目26単位のうち、15単位以上を修得済みであることが必要となります。

《表7 甲種危険物取扱者の受験資格認定に関わる科目一覧》

対応科目	単位数
環境リスク概論	2
地球環境の化学像	2
物質循環とエネルギー	4
水環境での物質循環	4
基礎化学実験I	2
基礎化学実験II	2
森林と土壌環境での物質循環	4
生態毒性	4
環境化学実験I	2
環境化学実験II	2

社会調査士・社会調査士（キャンディデイト）

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する調査の専門家のことで、一般社団法人社会調査協会が認定する資格です。本学では、社会調査士ならびに社会調査士の科目単位の一部を修得する社会調査士（キャンディデイト）が申請できます。

社会調査士（キャンディデイト）を取得するためには、①本学への在籍期間が1年以上であることに加え、②表1のA～Gに対応した科目単位を申請時まで、3科目以上単位修得していること、③表8を参照し②の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が5科目以上であることが必要となります（申請期間：6月中旬～7月上旬、10月上旬～同月下旬を予定）。

社会調査士を取得するためには、①学部を卒業することに加え、②表8のA～Gに対応した科目単位を全て修得することが必要となります（申請期間：卒業直後の3月下旬～4月上旬を予定）。

資格申請の詳細については、一般社団法人社会調査協会ホームページ（<https://jasr.or.jp/>）を参考にしてください。

《表8 社会調査士・社会調査士(キャンディデイト)資格取得に関わる科目一覧 2022年度(令和4年度)開講科目》

科目分類	対応科目	単位数
A 科目（社会調査の基本的事項に関する科目）	社会調査概論 / 社会環境調査概論	2
B 科目（調査設計と実施方法に関する科目）	ソーシャルリサーチ&プランニング / 環境リサーチ&プランニング	2
C 科目（基本的な資料とデータの分析に関する科目）	基礎数学	2
D 科目（社会調査に必要な統計学に関する科目）	統計処理法 / 環境統計解析学基礎	4
F 科目（質的な調査と分析の方法に関する科目）	社会調査法Ⅰ / 社会環境調査法Ⅰ	2
G 科目（社会調査を実際に経験し学習する科目）	エコ・フィールド社会実習 / 地域エコ・フィールド社会実習	2
	海外エコ・フィールド社会実習	4

注1) 2021年度以前に履修した科目も認定対象となる場合があります。社会調査協会ホームページをご確認ください（<https://www.jcbsr.jp/display.php?org=545>）。

表8の科目一覧は、2021年12月に申請した2022年度の予定科目であるため、上記ホームページより科目情報を確認することをお勧めします。

注2) 本学では、E科目（多変量解析の方法に関する科目）は開講していません。

第II部

カリキュラム

心理学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当者	備考		
学部 共通科目	人間環境学	1	2	前期	水	1	工藤 顕太	必修		
	基礎ゼミナールⅠ（再履修）	1	2	前期	火	5	菅原 太	必修		
	基礎ゼミナールⅡ（再履修）	1	2	後期	火	5	菅原 太	必修		
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1	2	通年	集中		花井 しおり	8/7~8/12		
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2	1	通年	集中		花井 しおり			
	キャリアデザイン	1	2	前期	木	2	樋口 貴子	必修		
	ビジネスコミュニケーション	3	2	前期	木	4	樋口 貴子			
	キャリア形成演習	3	1	後期	集中		樋口 貴子			
	キャリア教養基礎	1	1	後期	火	5	名古屋大原学園			
	情報実習Ⅰ（再履修）	1	1	前期	金	5	杉谷 誠弥	必修		
	情報実習Ⅱ（再履修）	1	1	後期	金	5	杉谷 誠弥	必修		
	スポーツ実習	1	1	後期	集中		菅原 太			
	英語Ⅰ（再履修）	1	2	前期	木	5	岡 良和	必修		
	英語Ⅱ（再履修）	1	2	後期	木	5	岡 良和	必修		
	英語Ⅲ	2	2	前期	水	2	岡 良和			
	英語Ⅳ	2	2	後期	水	2	岡 良和			
	英会話Ⅰ	1	2	前期	金	5	鬼谷 美紀			
	英会話Ⅱ	1	2	後期	金	5	鬼谷 美紀			
	ドイツ語Ⅰ	1	2	前期	水	3	城田 純平			
	ドイツ語Ⅱ	1	2	後期	水	4	城田 純平			
	中国語Ⅰ	1	2	前期	木	5	渡 昌弘			
	中国語Ⅱ	1	2	後期	木	5	渡 昌弘			
	単位互換履修生科目	別途要項を確認してください。								
	4大学単位互換科目	本年度不開講								
精神 環境科目	心理学 基礎科目	心理学概論	1	2	前期	遠隔授業 オンライン		西山 めぐみ	必修、心理学科生再履修のみ履修可	
		心理学研究法	1	2	前期	木	1	鎌水 秀和	必修	
		心理学統計法	1	2	後期	火	2	鎌水 秀和	必修	
		心理学基礎実験実習Ⅰ	2	1	前期	金	3	吉武・杉山・阿部 山内・藤野・渡邊	定員72名	
		心理学基礎実験実習Ⅱ	2	1	後期	金	3	吉武・建部・阿部 山内・藤野・渡邊	定員72名	
		心理検査実習Ⅰ	2	1	前期	金	4	吉武・杉山・阿部 山内・藤野・渡邊	定員72名	
		心理検査実習Ⅱ	2	1	後期	金	4	吉武・建部・阿部 山内・藤野・渡邊	定員72名	
		心理演習Ⅰ	3	1	前期	月	2	高橋・丸山	定員30名	
		心理演習Ⅱ	3	1	後期	木	1	丸山 宏樹	定員30名	
精神 環境科目	心理学 発展科目	学習・言語心理学	2	2	前期	火	2	鎌水 秀和		
		比較心理学	3	2	前期	金	2	西山 めぐみ		
		感情・人格心理学Ⅰ（感情心理学）	3	2	後期	金	4	池田 信子		
		知覚・認知心理学	2	2	前期	木	2	西山 めぐみ		
		神経・生理心理学	3	2	後期	金	2	西山 めぐみ		
		教育心理学	本年度不開講							
		発達心理学	1	2	前期	本年度不開講				
		生涯発達心理学	本年度不開講							
		青年心理学	3	2	前期	月	1	二宮 有輝		
		教育・学校心理学Ⅱ（学校心理学）	3	2	後期	月	4・5 (隔)	松村 奈々子	9/23, 10/7, 21, 11/4, 18, 12/2, 16, 1/20 (4限のみ)	
		教育・学校心理学Ⅰ（教育心理学）	1	2	後期	月	4	坂本 真也	2018(平成30)年度以降入学生および転・編入生用	
障害者・障害児心理学	2	2	後期	金	2	柴田 一匡				

心理学科 カリキュラム

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当者	備考		
精神環境科目	心理学発展科目	社会・集団・家族心理学	2	2	前期	火	3	吉武 久美			
		対人関係論	2	2	後期	金	2	池田 信子			
		マスメディア心理学	3	2	後期	木	3	西山 めぐみ			
		産業・組織心理学Ⅰ（産業心理学）	3	2	前期	金	1	和田 剛宗			
		産業・組織心理学Ⅱ（組織心理学）	3	2	後期	金	3	池田 信子			
		関係行政論	2	2	前期	月	2	後藤 有里			
精神環境科目	心理学発展科目	臨床心理学概論	1	2	後期	月	2	二宮 有輝		10/8 (3・4限)、10/22 (4・5限)、10/29 (3・4・5限) 11/12, 19, 26, 12/3, 10, 17, 1/14, 21	
		感情・人格心理学Ⅱ（人格心理学）	2	2	後期	木	2	西木 貴美子			
		発達臨床心理学	本年度不開講								
		健康・医療心理学	3	2	前期	月	1	今井田 貴裕			
		心理学的支援法（カウンセリング心理学）	3	2	前期	木	3	石塚 友也			
		心理療法論	3	2	前期	木	2	坂本 真也			
		精神分析学	3	2	後期	月	1	米澤 由美子			
		司法・犯罪心理学	3	2	後期	月	3	山脇 望美			
		医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	2	2	後期	火	1	西 由紀			
		精神医学概論（精神疾患とその治療）	3	2	後期	火	3~5	村瀬 聡美			
		福祉心理学	3	2	前期	月	4	山脇・米澤			
		犯罪の行動科学	3	2	後期	月	2	山脇 望美			
		刑事政策論	2	2	前期	水	2	敵島 行雄			
		刑事法	2	2	後期	水	2	敵島 行雄			
		供述心理学	2	2	後期	火	3	敵島 行雄			
精神環境科目	実習・演習科目	公認心理師の職責	2	2	前期	水	3	來多 泰明	定員30名		
		心理実習	3	2	通年	その他		三後・坂本・高橋 丸山・二宮・和田 今井田・（米澤）			
		心理学文献講読	2	2	後期	月	4	山脇 望美			
		心理学英語文献講読	3	2	前期	火	4	鎌水 秀和			
		心理学データ解析	2	2	前期	木	1	岡 良和			
		心理学実践研究（事例研究）	2	2	前期	月	4	西木 貴美子			
		心理学調査法（心理学研究Ⅰ）	2	2	前期	月	5	布井 雅人			
		心理学実験法（心理学研究Ⅱ）	2	2	前期	火	4	鎌水 秀和			
		心理学観察法（心理学研究Ⅲ）	2	2	後期	月	4	高橋 蔵人			
		心理学面接法（心理学研究Ⅳ）	2	2	前期	月	1・2	西木 貴美子			
		心理的アセスメント	2	2	前期	火	1・2	吉武 久美			
		心理学実験法（心理学研究Ⅱ）	2	2	後期	金	1	鎌水 秀和			
		心理学実験法（心理学研究Ⅱ）	2	2	後期	火	3	鎌水 秀和			
		心理学実験法（心理学研究Ⅱ）	2	2	後期	金	3	西山 めぐみ			
		心理学実験法（心理学研究Ⅱ）	2	2	後期	金	4	西山 めぐみ			
心理学観察法（心理学研究Ⅲ）	本年度不開講										
心理学面接法（心理学研究Ⅳ）	2	2	前期	火	3・4	柴田 一匡	定員50名				
心理的アセスメント	3	2	後期	木	2	山内 知里					
歴史・文化環境科目		言語表現論	1	2	後期	木	1	岡 良和			
		日本美術文化論Ⅰ	本年度不開講								
		日本美術文化論Ⅱ	1	2	後期	火	1	菅原 太			
		日本美術文化論Ⅲ	2	2	前期	月	2	菅原 太			
		日本美術文化論Ⅳ	2	2	後期	月	2	菅原 太			
		日本の言語芸術と文化Ⅰ	1	2	前期	火	3	花井 しおり			
		日本の言語芸術と文化Ⅱ	本年度不開講								
		日本の言語芸術と文化Ⅲ	本年度不開講								
		日本の言語芸術と文化Ⅳ	2	2	後期	火	1	花井 しおり			
		中国の歴史と文化Ⅰ	本年度不開講								
		中国の歴史と文化Ⅱ	本年度不開講								
		中国の歴史と文化Ⅲ	本年度不開講								
		中国の歴史と文化Ⅳ	本年度不開講								

心理学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当者	備考
自然・社会環境科目	共同フィールドワーク	1	1	前期	集中		岡久 雄二	2018(平成30)年度以前入学生用
	地域連携ワーク	本年度不開講						
	海と川の生物学入門	1	2	前期	金	1	西田 美紀	
	地域課題解決実習	本年度不開講						
	海洋ダイビング実習	1	1	前期	集中		中束 明佳	定員4名以上16名以内
	森林管理実習B	1	1	前期	集中		岡久 雄二	2019(平成31)年度以降入学生用
	生態学のフロンティア	本年度不開講						
	環境昆虫学	2	2	後期	火	2	久松 定智	
	データサイエンス概論	本年度不開講						
	社会調査概論	1	2	前期	月	1	谷川 彩月	
	ソーシャルリサーチ&プランニング	1	2	後期	金	2	谷川 彩月	
	環境リスク概論	1	2	前期	火	3	谷地 俊二	
	基礎数学	2	2	後期	木	1	森岡 伸介	
	自然地理学	2	2	前期	金	2	横家 将納	
	統計処理法	2	4	後期	火	1・2	立脇 隆文 江口 則和	
	生態系の機能と社会	1	2	前期	水	1	藤井 芳一	
	環境と生物の進化	1	2	後期	月	1	藤井 伸二	
	基礎生物学	2	2	前期	火	1	藤井 伸二	
	緑化・栽培概論	2	2	後期	金	2	小谷 博光	
	植物生態学	2	2	後期	遠隔授業 オンデマンド		藤井 伸二	心理学は履修不可 環境科学科は領域必修者のみ履修可
	動物生態学	2	2	後期	木	2	立脇 隆文	
	地球環境の化学像	1	2	後期	火	1	神本 祐樹	
	物質循環とエネルギー	本年度不開講						
	水環境での物質循環	本年度不開講						
	現代社会と経済	1	2	前期	火	4	山根 卓二	
	企業会計Ⅰ	本年度不開講						
	企業会計Ⅱ	本年度不開講						
	経営学概論	1	2	前期	木	3	磯貝 明	
	経済学概論	1	2	後期	火	4	山根 卓二	
	環境経営	2	2	前期	集中		大谷 聡子	8/30,31、9/6,7、予備日9/9
	環境問題と基本的人権	本年度不開講						
	環境倫理	2	2	後期	水	3	城田 純平	
	ゲーム理論	本年度不開講						
	環境思想	本年度不開講						
ビジネス英語	2	2	前期	金	4	鬼谷 美紀		
総合演習Ⅰ		3	2	前期	水	1	敵島 行雄	必修・クラス指定科目
					水	1	三後 美紀	
					水	1	高橋 蔵人	
					水	1	坂本 真也	
					水	1	和田 剛宗	
					水	1	今井田 貴裕	
					水	1	丸山 宏樹	
					水	1	西木 貴美子	
					水	1	二宮 有輝	
					水	1	山脇 望美	
					水	2	西山 めぐみ	
					水	2	吉武 久美	
					水	2	鎌水 秀和	
					水	2	皿谷 陽子	

心理学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当者	備考
	総合演習Ⅱ	3	2	後期	水	1	敵島 行雄	必修・クラス指定科目
					水	1	三後 美紀	
					水	1	高橋 蔵人	
					水	1	坂本 真也	
					水	1	和田 剛宗	
					水	1	今井田 貴裕	
					水	1	丸山 宏樹	
					水	1	西木 貴美子	
					水	1	二宮 有輝	
					水	1	山脇 望美	
					水	2	西山 めぐみ	
					水	2	吉武 久美	
					水	2	鎌水 秀和	
					水	2	皿谷 陽子	
						総合演習Ⅲ	4	
水	1	三後 美紀						
水	1	高橋 蔵人						
水	1	坂本 真也						
水	1	和田 剛宗						
水	1	今井田 貴裕						
水	1	丸山 宏樹						
水	1	西木 貴美子						
水	1	二宮 有輝						
水	1	山脇 望美						
水	2	西山 めぐみ						
水	2	吉武 久美						
水	2	鎌水 秀和						
水	2	皿谷 陽子						
	総合演習Ⅳ	4	2	後期				水
					水	1	三後 美紀	
					水	1	高橋 蔵人	
					水	1	坂本 真也	
					水	1	和田 剛宗	
					水	1	今井田 貴裕	
					水	1	丸山 宏樹	
					水	1	西木 貴美子	
					水	1	二宮 有輝	
					水	1	山脇 望美	
					水	2	西山 めぐみ	
					水	2	吉武 久美	
					水	2	鎌水 秀和	
					水	2	皿谷 陽子	
						卒業論文	4	6

心理学教科目表

必修・選択の区分		必修										選択										学年ごとの人材育成目標							
		学部共通科目		卒業論文		総合演習		心理学基礎科目		精神医療科目		心理学発展科目		社会・産業心理学科目		臨床心理学科目		演習・実習科目		歴史・文化連携科目			自然・社会連携科目		学部共通科目				
1年次	前期	人間環境学	2			心理学概論	2			発達心理学	2								日本の言語芸術と文化Ⅰ	2	共同フィールドワーク※3	1	英会話Ⅰ	2	心理学の全体像を把握すること にも、現代社会が抱えている 心理的問題に対しての対処 意識を高め、必要とされる人 材像を各自が持つ。				
		基礎ゼミナールⅠ 情報実習Ⅰ キャリアデザイン 英語Ⅰ	2 1 2 2			心理学研究法	2														環境管理実習B※4	2	ドイツ語Ⅰ	2		中国語Ⅰ	2		
	後期	基礎ゼミナールⅡ 情報実習Ⅱ 英語Ⅱ	2 1 2			心理学統計法	2			教育・学校心理学Ⅰ※2	2								言語表現論	2	環境と生物の進化	2	英会話Ⅱ	2	ドイツ語Ⅱ	2	中国語Ⅱ	2	スポーツ実習 キャリア教育基礎
進年																									海外大学単位互換科目Ⅰ	2			
2年次	前期				心理学基礎実験実習Ⅰ 心理検査実習Ⅰ	1 1	学習・言語心理学 知覚・認知心理学	2 2			社会・集団・家族心理学 関係行政論	2 2							日本美術文化論Ⅲ	2	自然地理学 基礎生物学 環境経営 ビジネス英語	2 2 2 2	英語Ⅲ	2	専門的な講義による高度な知識と、 実践的研究手法を身につけ、 実際の問題解決をはかる ことができる人材となること を目指す。				
		後期			心理学基礎実験実習Ⅱ 心理検査実習Ⅱ	1 1			障害者・障害児心理学	2	対人関係論	2	感情・人格心理学Ⅱ	2	医学概論(人々の健康と福祉の視点) 刑事法 共通心理学	2 2 2	心理学実験法(心理学研究Ⅱ) 心理学実践研究(事例研究) 心理学文献講読	2 2 2	日本美術文化論Ⅳ 日本の言語芸術と文化Ⅳ	2 2	統計処理法 植物生態学 環境昆虫学 緑化・緑地概論 基礎数学 環境倫理	4 2 2 2 2	英語Ⅳ	2					
	進年																								海外大学単位互換科目Ⅱ	1			
3年次	前期			総合演習Ⅰ	2	心理演習Ⅰ	1	比較心理学	2	青年心理学	2	健康・人間心理学Ⅰ(健康心理学)	2	健康・医療心理学 心理学実法(カウンセリング実習) 心理療法学	2 2 2	福祉心理学	2	心理学英語文献講読	2							ビジネスコミュニケーション	1	専門的な講義と、演習形式による 授業での討論を通して、 学生自身の研究テーマを明確 にしていく。研究を進めてい く中で、これまで得た知識 や技能を総合して、現代社会 の問題解決に寄与する思考力 と実践力を持った人材を目指 す。そのためにはキャリア形成 演習などの活用も不可欠で ある。また、一部の学生は、 臨床心理士、公認心理師とし て社会に貢献する人材を目指 す。	
		後期			総合演習Ⅱ	2	心理演習Ⅱ	1	神経・生理心理学 健康・人間心理学Ⅰ(健康心理学)	2 2	教育・学校心理学Ⅱ(学校心理学) 健康・人間心理学Ⅱ(健康心理学)	2 2	精神分析学 司法・犯罪心理学	2 2	精神医学概論(精神科医とその関係) 犯罪心理学	2 2	心理的アセスメント	2								キャリア形成演習	1		
	進年																												
4年次	前期			総合演習Ⅲ	2																						卒業論文をまとめること、 人間環境学と心理学を基礎と した4年間の総合的な学びの 総括により、特に専門的知識 を有する人材は、現代 社会の問題への対応力を有し た人材となることを目指す。		
		後期			総合演習Ⅳ	2																							
	進年			卒業論文	6																								
進年			卒業論文	6	現代社会における心の問題や、さまざまな現象について探求し、深く考察する力を修得する。	対象を分析し統合していく思考力、他者との相互の考え方を理解し問題を探究していく力、および他者へ働き掛けていく表現力を身につける。	心理学を深く学ぶ上での土台となる、心理学の幅広い領域における基礎知識。各領域における多様な研究法。研究に必要な心理統計の基礎知識を身につける。	心理学の基礎的実験や心理検査を実施したり、収集したデータを分析したりする能力、および分析結果を適切な形式の報告書にまとめる力を修得する。	知覚、認知、思考、感情など、心の働きのおよびその性質や背景にあるメカニズムを学び、心を科学的に研究するための視点を養う。	人の生涯にわたる発達段階の心理学的特徴と課題について理解を深め、洞察力を養う。さらに、学校現場や子どもを取り巻く諸問題について、その背景要因を分析する力や、援助のあり方を探求し応用する力を身につける。	対人関係や集団・組織における人の意識および行動についての心の過程や、家族・集団・文化が個人に及ぼす影響について説明する力、組織における問題に対して必要な心に関する支援とその方法を説明する力を身につける。	人のこころが失調をきたす機序を理解し、失調をきたしたこころへの援助方法についてこれまで臨床心理学分野で積み上げられてきた知識を身につける。さらに、こころの病だけでなく、健康なこころについても理解を深める。	心理学の近接領域である医療や福祉についての知識を学ぶ。人間の心身の発達や、疾患の特徴・病態生理・診断・治療、福祉現場に對して生じる問題とその背景・心理社会的課題と必要な支援に関する知識を身につける。	心理学の専門的研究をおこなうために必要な実験・検査・観察・面接などの実施方法や多様な方法論に関する知識を、体系的な学習や専門的な文脈の講義を通して身につける。	人間が生きてきた歴史・文化的な側面での人間環境についての基礎知識を修得する。	人間が所属している社会の経済的枠組みや、人間をとりまく自然環境についての基礎知識を修得する。	グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献するための基礎的知識を完成させる。また、企業・地域社会などに寄与する活動能力の基礎を完成する。												

※1 2017年度(平成29年度)入学生用科目
 ※2 2018年度(平成30年度)以降入学生用科目
 ※3 2018年度(平成30年度)以前入学生用科目
 ※4 2019年度(平成31年度)以降入学生用科目

環境科学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
学部 共通 科目	人間環境学	1	2	前期	木	2	工藤 顕太	必修	
	基礎ゼミナールⅠ（再履修）	1	2	前期	火	5	菅原 太	必修	
	基礎ゼミナールⅡ（再履修）	1	2	後期	火	5	菅原 太	必修	
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1	2	通年	集中		花井 しおり	8/7～8/12	
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2	1	通年	集中		花井 しおり		
	キャリアデザイン	1	2	前期	木	1	樋口 貴子	必修	
	ビジネスコミュニケーション	3	2	前期	木	4	樋口 貴子		
	キャリア形成演習	3	1	後期	集中		樋口 貴子		
	キャリア教養基礎	1	1	後期	火	5	名古屋大原学園		
	情報実習Ⅰ（再履修）	1	1	前期	金	5	杉谷 誠弥	必修	
	情報実習Ⅱ（再履修）	1	1	後期	金	5	杉谷 誠弥	必修	
	スポーツ実習	1	1	後期	集中		菅原 太		
	英語Ⅰ（再履修）	1	2	前期	木	5	岡 良和	必修	
	英語Ⅱ（再履修）	1	2	後期	木	5	岡 良和	必修	
	英語Ⅲ	2	2	前期	水	2	岡 良和		
	英語Ⅳ	2	2	後期	水	2	岡 良和		
	英会話Ⅰ	1	2	前期	金	5	鬼谷 美紀		
	英会話Ⅱ	1	2	後期	金	5	鬼谷 美紀		
	ドイツ語Ⅰ	1	2	前期	水	3	城田 純平		
	ドイツ語Ⅱ	1	2	後期	水	4	城田 純平		
	中国語Ⅰ	1	2	前期	木	5	渡 昌弘		
	中国語Ⅱ	1	2	後期	木	5	渡 昌弘		
	単位互換履修生科目	別途要項を確認してください。							
	4大学単位互換科目	本年度不開講							
自然・社会 環境 科目	共同フィールドワーク	1	1	前期	集中		岡久 雄二	2018(平成30)年度以前入学生用	
	地域連携ワーク	本年度不開講							
	学術論文講読Ⅰ	2	2	前期	金	1	神本 祐樹	必修	
							森岡 伸介		
							江口 則和		
							久松 定智		
	学術論文講読Ⅱ	2	2	後期	金	1	神本 祐樹	必修	
							森岡 伸介		
							江口 則和		
							久松 定智		
	蛭田 有希								
農業基礎実習Ⅰ	2	2	前期	月	3・4	横家 将納	定員30名		
農業基礎実習Ⅱ	2	2	後期	月	3・4	横家 将納	定員30名		
演習Ⅰ	3	2	前期	水	2	磯貝 明	必修・クラス指定科目		
						立脇 隆文			
						西田 美紀			
						久松 定智			
						横家 将納			
						藤井 伸二			
						江口 則和			
						森岡 伸介			
						岡久 雄二			
						中束 明佳			
藤井芳・神本									
山根 卓二									
小谷 博光									
谷川 彩月									
谷地 俊二									

環境科学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考
自然・社会環境科目	演習Ⅱ	3	2	後期	水	2	磯貝 明	必修・クラス指定科目
							立脇 隆文	
							西田 美紀	
							久松 定智	
							横家 将納	
							藤井 伸二	
							江口 則和	
							森岡 伸介	
							岡久 雄二	
							中東 明佳	
							藤井芳・神本	
							山根 卓二	
	演習Ⅲ	4	2	前期	水	2	磯貝 明	必修・クラス指定科目
							立脇 隆文	
							西田 美紀	
							久松 定智	
							横家 将納	
							藤井 伸二	
							江口 則和	
							森岡 伸介	
岡久 雄二								
中東 明佳								
藤井芳・神本								
山根 卓二								
演習Ⅳ	4	2	後期	水	2	磯貝 明	必修・クラス指定科目	
						立脇 隆文		
						西田 美紀		
						久松 定智		
						横家 将納		
						藤井 伸二		
						江口 則和		
						森岡 伸介		
						岡久 雄二		
						中東 明佳		
						藤井芳・神本		
						山根 卓二		
インターンシップ	3	1	前期	集中	藤井 芳一			
エコ・フィールド社会実習	2	2	通年	集中	谷川 彩月	定員15名		
森林管理実習	1	1	前期	集中	森岡 伸介	2018(平成30)年度以前入学生用		
海と川の生物学入門	1	2	前期	金	1	西田 美紀		
動物園・水族館実習	2	1	通年	集中	立脇・西田			
地域課題解決実習	本年度不開講							
海洋ダイビング実習	1	1	前期	集中	中東 明佳	定員4名以上16名以内		
水族館展示実習	2	1	前期	火	1	小林 龍二	定員40名	
森林管理実習A	1	1	前期	集中	森岡 伸介	2019(平成31)年度以降入学生用		
森林管理実習B	1	1	前期	集中	岡久 雄二	2019(平成31)年度以降入学生用		
生態学のフロンティア	本年度不開講							
潮間帯リサーチ入門	2	1	前期	水	1	西田 美紀	定員15名(GPA条件あり)	

環境科学科 カリキュラム

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
自然・社会環境科目	社会環境共通科目	環境昆虫学	2	2	後期	火	2	久松 定智		
		データサイエンス概論	本年度不開講							
		農業・情報キャリア論	本年度不開講							
		社会調査概論	1	2	前期	月	1	谷川 彩月		
		ソーシャルリサーチ&プランニング	1	2	後期	金	2	谷川 彩月		
		環境情報と社会	本年度不開講							
		ビジネス英語	2	2	前期	金	4	鬼谷 美紀		
		環境と多文化共生	2	2	後期	木	1	鬼谷 美紀		
自然・社会環境科目	自然環境共通科目	環境リスク概論	1	2	前期	火	3	谷地 俊二		
		基礎数学	2	2	後期	木	1	神本 祐樹		
		自然地理学	2	2	前期	金	2	横家 将納		
		統計処理法	2	4	後期	火	1・2	立脇 隆文 江口 則和		
		地理情報処理法	3	2	前期	火	1	横家 将納 岡久 雄二		
	生態系基本科目	生態系の機能と社会	1	2	前期	水	1	藤井 芳一		
		環境と生物の進化	1	2	後期	月	1	藤井 伸二		
		基礎生物学	2	2	前期	火	1	藤井 伸二		
		緑化・栽培概論	2	2	後期	金	2	小谷 博光		
		緑地・植物学基礎実習	2	2	前期	火	3・4	藤井伸・江口	定員75名程度	
		植物生態学	2	2	後期	遠隔授業 オンデマンド		藤井 伸二	領域必修者のみ履修可	
		動物生態学	2	2	後期	木	2	立脇 隆文		
		動物学基礎実習	2	2	後期	火	3・4	森岡 伸介 西田 美紀 岡久 雄二	定員75名程度 定員75名程度 定員75名程度	
		生物多様性	3	2	前期	木	4	藤井 伸二		
		自然環境科目	動物行動学	3	2	後期	木	3	西田 美紀	
	野生動物保全学		3	2	前期	木	2	立脇 隆文		
	動物学実習		3	2	通年	金	3・4	立脇・久松・岡久 森岡・西田・中束	定員15名 陸生動物生態実習のうち指定した2コマ分を受講 定員15名 水生動物生態実習のうち指定した2コマ分を受講	
	人間動物関係学		3	2	後期	遠隔授業 オンデマンド		立脇 隆文	領域必修者のみ履修可	
	植物学実習		3	2	通年	金	3・4	横家・藤井伸・江口	定員16名 植物生態実習のうち指定した2コマ分を受講	
	植物形態・分類学		3	2	前期	木	3	藤井 伸二		
	緑地管理学		3	2	後期	月	2	江口 則和		
	緑地学実習		3	2	通年	金	3・4	横家・藤井伸・江口	定員16名 植物生態実習のうち指定した2コマ分を受講	
	栽培学実習		本年度不開講							定員16名
	物質循環科目		地球環境の化学像	1	2	後期	火	1	神本 祐樹	
		物質循環とエネルギー	本年度不開講							再履のみ履修可
		基礎化学実験Ⅰ	2	2	前期	金	3・4	藤井 芳一	定員22名	
		基礎化学実験Ⅱ	2	2	後期	金	3・4	神本 祐樹	定員22名	
		水環境での物質循環	本年度不開講							
		森林と土壌環境での物質循環	3	4	前期	遠隔授業 オンデマンド		藤井 芳一	領域必修者のみ履修可	
		環境化学実験Ⅰ	3	2	通年	火	3・4	藤井芳・神本	定員16名 生態系機能評価実験のうち指定した2コマ分を受講	
		環境化学実験Ⅱ	3	2	通年	火	3・4	藤井芳・神本	定員16名 生態系機能評価実験のうち指定した2コマ分を受講	
		土壌圏保全論	3	2	後期	遠隔授業 オンデマンド		藤井 芳一	領域必修者のみ履修可	
生態毒性	3	4	後期	遠隔授業 オンデマンド		谷地 俊二	領域必修者のみ履修可			

環境科学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
自然・社会環境科目	社会環境基本科目	現代社会と経済	1	2	前期	火	4	山根 卓二	
		企業会計Ⅰ	1	2	後期	木	3・4	磯貝・榊原	企業会計のうち前半15コマを受講
		企業会計Ⅱ	1	2	後期	木	3・4	磯貝・榊原	企業会計のうち後半15コマを受講
		経営学概論	1	2	前期	木	3	磯貝 明	
		経済学概論	1	2	後期	火	4	山根 卓二	
		環境経済学Ⅰ	2	2	前期	水	1	山根 卓二	
		環境経済学Ⅱ	2	2	後期	遠隔授業 オンデマンド		山根 卓二	領域必修者のみ履修可
		環境経営	2	2	前期	集中		大谷 聡子	8/30,31、9/6,7、予備日9/9
		現代企業論	2	2	前期	遠隔授業 オンデマンド		山根 卓二	領域必修者のみ履修可
		金融	2	2	前期	遠隔授業 オンデマンド		山根 卓二	領域必修者のみ履修可
		財政	2	2	前期	遠隔授業 オンデマンド		山根 卓二	領域必修者のみ履修可
		国際協力論	2	2	前期	月	2	小谷 博光	
		環境と開発	2	2	後期	火	2	小谷 博光	
		地域経済	2	2	後期	金	2	塚本 高浩	
		環境法制	3	2	後期	集中		岩田 成恭	9/21(2~4限)、10/26、11/16、12/14(1~4限) 試験は定期試験に実施
		経営分析	3	2	前期	木	2	磯貝・横山	経営データ・ESG投資分析のうち指定した1コマ(2単位)分を受講
	エネルギーと文明史	3	2	後期	火	3	山根 卓二		
	環境政策	3	2	前期	木	4	矢部 隆		
	産業構造論	3	2	前期	遠隔授業 オンデマンド		山根 卓二	領域必修者のみ履修可 ※「ゲーム理論」	
	環境問題と基本的人権	本年度不開講							
	環境倫理	2	2	後期	水	3	城田 純平		
	ゲーム理論	本年度不開講							
	社会調査法Ⅰ	2	2	前期	金	3	小谷 博光	定員20名	
	社会調査法Ⅱ	2	2	後期	月	2	谷川 彩月	定員20名	
	簿記論Ⅰ	本年度不開講							
	簿記論Ⅱ	本年度不開講							
	環境思想	本年度不開講							
	経済学史Ⅰ	3	2	前期	金	2	山根 卓二		
	経済学史Ⅱ	本年度不開講							
	ソーシャルビジネス論	本年度不開講							
	水と緑の政策	本年度不開講							
	環境社会学	3	2	後期	月	3	谷川 彩月		
山地災害論	本年度不開講								
歴史・文化環境科目	言語表現論	1	2	後期	木	1	岡 良和		
	日本美術文化論Ⅰ	本年度不開講							
	日本美術文化論Ⅱ	1	2	後期	火	1	菅原 太		
	日本美術文化論Ⅲ	2	2	前期	月	2	菅原 太		
	日本美術文化論Ⅳ	2	2	後期	月	2	菅原 太		
	日本の言語芸術と文化Ⅰ	1	2	前期	火	3	花井 しおり		
	日本の言語芸術と文化Ⅱ	本年度不開講							
	日本の言語芸術と文化Ⅲ	本年度不開講							
	日本の言語芸術と文化Ⅳ	2	2	後期	火	1	花井 しおり		
	中国の歴史と文化Ⅰ	本年度不開講							
	中国の歴史と文化Ⅱ	本年度不開講							
	中国の歴史と文化Ⅲ	本年度不開講							
	中国の歴史と文化Ⅳ	本年度不開講							

環境科学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
精神環境科目	心理学概論	1	2	前期	遠隔授業 オンデマンド		西山 めぐみ	心理学科生再履修のみ履修可	
	心理学研究法	1	2	前期	木	1	鎌水 秀和		
	心理学統計法	1	2	後期	火	2	鎌水 秀和		
	学習・言語心理学	2	2	前期	火	2	鎌水 秀和		
	感情・人格心理学Ⅰ（感情心理学）	3	2	後期	金	4	池田 信子		
	知覚・認知心理学	2	2	前期	木	2	西山 めぐみ		
	教育心理学	本年度不開講							2017(平成29)年度入学生用
	発達心理学	1	2	前期	本年度不開講				
	青年心理学	3	2	前期	月	1	二宮 有輝		
	教育・学校心理学Ⅱ（学校心理学）	3	2	後期	月	4・5(隔)	松村 奈々子		
	教育・学校心理学Ⅰ（教育心理学）	1	2	後期	月	4	坂本 真也		2018(平成30)年度以降入学生および転・編入生用
	社会・集団・家族心理学	2	2	前期	火	3	吉武 久美		
	対人関係論	2	2	後期	金	2	池田 信子		
	マスメディア心理学	3	2	後期	木	3	西山 めぐみ		
	産業・組織心理学Ⅰ（産業心理学）	3	2	前期	金	1	和田 剛宗		
	産業・組織心理学Ⅱ（組織心理学）	3	2	後期	金	3	池田 信子		
	臨床心理学概論	1	2	後期	月	2	二宮 有輝		
	感情・人格心理学Ⅱ（人格心理学）	2	2	後期	木	2	西木 貴美子		
	健康・医療心理学	3	2	前期	月	1	今井田 貴裕		
	卒業論文	4	6	通年	-			必修	

第Ⅲ部

教員名簿

教育課程および履修方法に関する規程

転・編入生の履修方法に関する規程

人間環境大学 授業に関する規程

校舎案内図

人間環境学部 非常勤講師一覧
(五十音順)

氏 名	メールアドレス	本 務 校 等
阿部 奏介	s-abe@uhe.ac.jp	
池田 信子	n-ikeda@uhe.ac.jp	
石塚 友也	t-ishizuka@uhe.ac.jp	
岩田 成恭	m-iwata@uhe.ac.jp	
大谷 聡子	s-otani@uhe.ac.jp	
亀山 知樹	t-kameyama@uhe.ac.jp	名古屋大原学園
來多 泰明	y-kita@uhe.ac.jp	
建部 智美	t-kenpe@uhe.ac.jp	
後藤 有里	y-goto@uhe.ac.jp	
小林 龍二	r-kobayashi@uhe.ac.jp	
榊原 真澄	sakakibara@uhe.ac.jp	
杉山 陽香	h-sugiyama@uhe.ac.jp	
鈴木 茂行	s-suzuki@uhe.ac.jp	名古屋大原学園
塚本 高浩	tak-tsukamoto@uhe.ac.jp	
西 由紀	y-nishi@uhe.ac.jp	人間環境大学看護学部 准教授
布井 雅人	m-nunoi@uhe.ac.jp	
樋口 貴子	t-higuchi@uhe.ac.jp	
藤野 真行	m-fujino@uhe.ac.jp	
別宮 直子	n-bekku@uhe.ac.jp	人間環境大学松山看護学部 教授
松村 奈々子	n-matsumura@uhe.ac.jp	
村瀬 聡美	s-murase@uhe.ac.jp	
矢部 隆	t-yabe@uhe.ac.jp	
山内 知里	c-yamauchi@uhe.ac.jp	
山田 歩実	a-yamada@uhe.ac.jp	名古屋大原学園
横山 真紀子	yokoyama@uhe.ac.jp	
渡邊 玲子	r-watanabe@uhe.ac.jp	
渡 昌弘	watari@uhe.ac.jp	
川瀬 誠子	-	(助手)
杉浦 弘美	-	(助手)
番野 まどか	banno@uhe.ac.jp	(助手)
宮西 葵	a-miyanishi@uhe.ac.jp	(助手)
安井 尚美	n-yasui@uhe.ac.jp	(助手)

※1 メールの使用については、授業担当者より指示を受けてください。

人間環境大学人間環境学部心理学科 教育課程および履修方法に関する規程

(準拠)

第 1 条 この規程は、人間環境大学学則第 29 条に基づき教育課程および履修方法について定める。

- 2 編入学又は転入学を許可された者の履修方法については別に定める。
- 3 大学院の教育課程および履修方法については、別に定める。

(授業科目の区分)

第 2 条 授業科目は、以下の科目に区分する。

- (1) 学部共通科目
- (2) 精神環境科目
- (3) 自然・社会環境科目
- (4) 歴史・文化環境科目
- (5) 総合演習・卒業論文

(卒業単位と卒業論文)

第 3 条 本学を卒業するためには、前条に定める科目群から以下の必要単位数を含め 126 単位以上を修得しなければならない。

- (1) 学部共通科目 14 単位以上
ただし、必修科目 14 単位を含むこと。
- (2) 精神環境科目 22 単位以上
 - イ 心理学基礎科目 6 単位以上
ただし、必修科目 6 単位を含むこと
 - ロ 心理学発展科目
 - ・基礎心理学関連科目 2 単位以上
 - ・発達・教育心理学関連科目 4 単位以上
 - ・社会・産業心理学関連科目 4 単位以上
 - ・臨床心理学関連科目 4 単位以上
 - ・隣接関連科目 2 単位以上
- (3) 自然・社会環境科目 8 単位以上
- (4) 歴史・文化環境科目 8 単位以上
- (5) 総合演習 I・II・III・IV、卒業論文 14 単位

(開設授業科目)

第 4 条 本学が開設する授業科目は、別表 1 のとおりとする。

(履修科目の登録の上限と制限)

第 5 条 1 年間に履修科目として登録できる単位数は 46 単位以下とする。なお、前年度の GPA が 3.50 以上の場合、登録できる単位数は 50 単位以下とする。また、前年度の GPA が 0.70 未満の場合、登録できる単位数は 45 単位以下とする。

- 2 3 年次配当の総合演習科目を履修する為には、前年度までに 40 単位以上の修得かつ通算 GPA0.43 以上であることを条件とし、4 年次以上の学生は前年度までに 40 単位以上を修得することのみ条件とする。
- 3 総合演習は、I、II、III、IV の順番で修得することとし、同時に、又は飛び越えて履修することはできない。なお、前項の条件に満たない場合は 4 年の在学期間での卒業が不可となる。

【平成 31 年度以降入学生】

(成績)

第 6 条 学則第 34 条に定める成績は、下記の評価基準により認定する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
100～90 点	S	合格	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80 点	A		学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70 点	B		学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60 点	C		学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60 点未満	D	不合格	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

2 学則以外に定める評価は、下記の基準により実施する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
試験欠席	E	不合格	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄	F		出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	N	認定	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

(総合成績評価)

第 7 条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
D	0
E	0
F	0
N	対象外

2 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$

3 成績証明書には、GPA は明記しない。

4 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。

- (1)成績の評価点が認定となる科目
- (2)定められた期間に履修取り消しの手続きをした科目
- (3)その他、卒業要件に算入されない科目

(規程の改廃)

第 8 条 この規程の改廃は、人間環境学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附則 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

人間環境学部心理学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	人間環境学	1	2			複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は2単位まで。 複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は1単位まで。
	基礎ゼミナールⅠ	1	2			
	基礎ゼミナールⅡ	1	2			
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1		2		
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2		1		
	キャリアデザイン	1	2			
	ビジネスコミュニケーション	3		2		
	キャリア形成演習	3		1		
	キャリア教養基礎	1		1		
	情報実習Ⅰ	1	1			
	情報実習Ⅱ	1	1			
	スポーツ実習	1		1		
	英語Ⅰ	1	2			
	英語Ⅱ	1	2			
	英語Ⅲ	2		2		
	英語Ⅳ	2		2		
	英会話Ⅰ	1		2		
	英会話Ⅱ	1		2		
	ドイツ語Ⅰ	1		2		
	ドイツ語Ⅱ	1		2		
	中国語Ⅰ	1		2		
	中国語Ⅱ	1		2		
	4大学単位互換科目A	1		2		
	4大学単位互換科目B	1		2		
	4大学単位互換科目C	1		2		
	4大学単位互換科目D	1		2		
	4大学単位互換科目E	1		2		
	4大学単位互換科目F	1		2		
	4大学単位互換科目G	1		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅰ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅱ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅲ	2		2		
	単位互換履修生科目B-Ⅰ	2		4		
単位互換履修生科目B-Ⅱ	2		4			
単位互換履修生科目B-Ⅲ	2		4			
精神環境科目	心理学基礎科目	心理学概論	1	2		
		心理学研究法	1	2		
		心理学統計法	1	2		
		心理学基礎実験実習Ⅰ	2		1	
		心理学基礎実験実習Ⅱ	2		1	
		心理検査実習Ⅰ	2		1	
		心理検査実習Ⅱ	2		1	
		心理演習Ⅰ	3		1	
		心理演習Ⅱ	3		1	

人間環境学部心理学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
授業科目の概要	精神環境科目	基礎心理学関連	学習・言語心理学	2	2		「心理実習」の実習時間数は80時間以上とする。
			比較心理学	3	2		
			感情・人格心理学Ⅰ（感情心理学）	3	2		
			知覚・認知心理学	2	2		
			神経・生理心理学	3	2		
		発達・教育心理学関連	教育・学校心理学Ⅰ（教育心理学）	1	2		
			発達心理学	1	2		
			生涯発達心理学	2	2		
			障害者・障害児心理学	2	2		
			青年心理学	3	2		
			教育・学校心理学Ⅱ（学校心理学）	3	2		
		社会学・産業心理学関連	社会・集団・家族心理学	2	2		
			関係行政論	2	2		
			対人関係論	2	2		
			マスメディア心理学	3	2		
			産業・組織心理学Ⅰ（産業心理学）	3	2		
			産業・組織心理学Ⅱ（組織心理学）	3	2		
			臨床心理学概論	1	2		
	臨床心理学関連	感情・人格心理学Ⅱ（人格心理学）	2	2			
		発達臨床心理学	2	2			
		健康・医療心理学	3	2			
		心理学的支援法（カウンセリング心理学）	3	2			
		心理療法論	3	2			
		精神分析学	3	2			
		司法・犯罪心理学	3	2			
	隣接関連	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	2	2			
		精神医学概論（精神疾患とその治療）	3	2			
		福祉心理学	3	2			
		犯罪の行動科学	3	2			
		刑事政策論	2	2			
		刑事法	2	2			
		供述心理学	2	2			
	実習・演習科目	公認心理師の職責	2	2			
		心理実習	3	2			
		心理学文献講読	2	2			
		心理学英語文献講読	3	2			
心理学データ解析		2	2				
心理学実践研究（事例研究）		2	2				
心理学調査法（心理学研究Ⅰ）		2	2				
心理学実験法（心理学研究Ⅱ）		2	2				
心理学観察法（心理学研究Ⅲ）		2	2				
心理学面接法（心理学研究Ⅳ）		2	2				
心理的アセスメント	3	2					

人間環境学部心理学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
歴史・文化環境科目	言語表現論	1		2		複数回履修可。
	日本美術文化論Ⅰ	1		2		
	日本美術文化論Ⅱ	1		2		
	日本美術文化論Ⅲ	2		2		
	日本美術文化論Ⅳ	2		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅰ	1		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅱ	1		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅲ	2		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅳ	2		2		
	中国の歴史と文化Ⅰ	1		2		
	中国の歴史と文化Ⅱ	1		2		
	中国の歴史と文化Ⅲ	2		2		
	中国の歴史と文化Ⅳ	2		2		
授業科目の概要 自然・社会環境科目	共同フィールドワーク	1		1		
	森林管理実習B	1		1		
	地域連携ワーク	1		1		
	地域課題解決実習	1		1		
	海洋ダイビング実習	1		1		
	環境リスク概論	1		2		
	生態学のフロンティア	1		1		
	環境昆虫学	2		2		
	データサイエンス概論	2		2		
	社会調査概論	1		2		
	ソーシャルリサーチ&プランニング	1		2		
	基礎数学	2		2		
	自然地理学	2		2		
	統計処理法	2		4		
	生態系の機能と社会	1		2		
	環境と生物の進化	1		2		
	海と川の生物学入門	1		2		
	基礎生物学	2		2		
	緑化・栽培概論	2		2		
	植物生態学	2		2		
	動物生態学	2		2		
	地球環境の化学像	1		2		
	物質循環とエネルギー	2		4		
	水環境での物質循環	2		4		
	現代社会と経済	1		2		
	経営学概論	1		2		
	企業会計Ⅰ	1		2		
	企業会計Ⅱ	1		2		
	環境問題と基本的人権	1		2		
	環境倫理	2		2		
	経済学概論	1		2		
	環境経営	2		2		
	ゲーム理論	2		2		
環境思想	2		2			
ビジネス英語	2		2			
総合演習Ⅰ	3		2			
総合演習Ⅱ	3		2			
総合演習Ⅲ	4		2			
総合演習Ⅳ	4		2			
卒業論文	4		6			

人間環境大学人間環境学部心理学科 教育課程および履修方法に関する規程

(準拠)

第 1 条 この規程は、人間環境大学学則第 29 条に基づき教育課程および履修方法について定める。

- 2 編入学又は転入学を許可された者の履修方法については別に定める。
- 3 大学院の教育課程および履修方法については、別に定める。

(授業科目の区分)

第 2 条 授業科目は、以下の科目に区分する。

- (1) 学部共通科目
- (2) 精神環境科目
- (3) 自然・社会環境科目
- (4) 歴史・文化環境科目
- (5) 総合演習・卒業論文

(卒業単位と卒業論文)

第 3 条 本学を卒業するためには、前条に定める科目群から以下の必要単位数を含め 126 単位以上を修得しなければならない。

- (1) 学部共通科目 14 単位以上
ただし、必修科目 14 単位を含むこと。
- (2) 精神環境科目 22 単位以上
 - イ 心理学基礎科目 6 単位以上
ただし、必修科目 6 単位を含むこと
 - ロ 心理学発展科目
 - ・基礎心理学関連科目 2 単位以上
 - ・発達・教育心理学関連科目 4 単位以上
 - ・社会・産業心理学関連科目 4 単位以上
 - ・臨床心理学関連科目 4 単位以上
 - ・隣接関連科目 2 単位以上
- (3) 自然・社会環境科目 8 単位以上
- (4) 歴史・文化環境科目 8 単位以上
- (5) 総合演習 I・II・III・IV、卒業論文 14 単位

(開設授業科目)

第 4 条 本学が開設する授業科目は、別表 1 のとおりとする。

(履修科目の登録の上限と制限)

第 5 条 1 年間に履修科目として登録できる単位数は 46 単位以下とする。なお、前年度の GPA が 3.50 以上の場合、登録できる単位数は 50 単位以下とする。

- 2 3 年次配当の総合演習科目を履修する為には、前年度までに 40 単位以上を修得する。
- 3 総合演習は、I、II、III、IVの順番で修得することとし、同時に、又は飛び越えて履修することはできない。

(成績)

第 6 条 学則第 34 条に定める成績は、下記の評価基準により認定する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
100～90 点	S	合格	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80 点	A		学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70 点	B		学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60 点	C		学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60 点未満	D	不合格	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

2 学則以外に定める評価は、下記の基準により実施する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
試験欠席	E	不合格	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄	F		出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	N	認定	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

(総合成績評価)

第 7 条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
D	0
E	0
F	0
N	対象外

2 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$

3 成績証明書には、GPA は明記しない。

4 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。

- (1)成績の評価点が認定となる科目
- (2)定められた期間に履修取り消しの手続きをした科目
- (3)その他、卒業要件に算入されない科目

(規程の改廃)

第 8 条 この規程の改廃は、人間環境学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附則 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

人間環境学部心理学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	人間環境学	1	2			複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は2単位まで。 複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は1単位まで。
	基礎ゼミナールⅠ	1	2			
	基礎ゼミナールⅡ	1	2			
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1		2		
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2		1		
	キャリアデザイン	1	2			
	ビジネスコミュニケーション	3		2		
	キャリア形成演習	3		1		
	キャリア教養基礎	1		1		
	情報実習Ⅰ	1	1			
	情報実習Ⅱ	1	1			
	スポーツ実習	1		1		
	英語Ⅰ	1	2			
	英語Ⅱ	1	2			
	英語Ⅲ	2		2		
	英語Ⅳ	2		2		
	英会話Ⅰ	1		2		
	英会話Ⅱ	1		2		
	ドイツ語Ⅰ	1		2		
	ドイツ語Ⅱ	1		2		
	中国語Ⅰ	1		2		
	中国語Ⅱ	1		2		
	4大学単位互換科目A	1		2		
	4大学単位互換科目B	1		2		
	4大学単位互換科目C	1		2		
	4大学単位互換科目D	1		2		
	4大学単位互換科目E	1		2		
	4大学単位互換科目F	1		2		
	4大学単位互換科目G	1		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅰ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅱ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅲ	2		2		
	単位互換履修生科目B-Ⅰ	2		4		
単位互換履修生科目B-Ⅱ	2		4			
単位互換履修生科目B-Ⅲ	2		4			
精神環境科目	心理学基礎科目	心理学概論	1	2		
		心理学研究法	1	2		
		心理学統計法	1	2		
		心理学基礎実験実習Ⅰ	2		1	
		心理学基礎実験実習Ⅱ	2		1	
		心理検査実習Ⅰ	2		1	
		心理検査実習Ⅱ	2		1	
		心理演習Ⅰ	3		1	
		心理演習Ⅱ	3		1	

人間環境学部心理学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	精神環境科目	基礎心理学関連	学習・言語心理学	2	2	
			比較心理学	3	2	
			感情・人格心理学Ⅰ（感情心理学）	3	2	
			知覚・認知心理学	2	2	
			神経・生理心理学	3	2	
		発達・教育心理学関連	教育・学校心理学Ⅰ（教育心理学）	1	2	
			発達心理学	1	2	
			生涯発達心理学	2	2	
			障害者・障害児心理学	2	2	
			青年心理学	3	2	
			教育・学校心理学Ⅱ（学校心理学）	3	2	
		社会学・産業心理学関連	社会・集団・家族心理学	2	2	
			関係行政論	2	2	
			対人関係論	2	2	
			マスメディア心理学	3	2	
			産業・組織心理学Ⅰ（産業心理学）	3	2	
			産業・組織心理学Ⅱ（組織心理学）	3	2	
			臨床心理学関連	臨床心理学概論	1	2
	感情・人格心理学Ⅱ（人格心理学）	2		2		
	発達臨床心理学	2		2		
	健康・医療心理学	3		2		
	心理学的支援法（カウンセリング心理学）	3		2		
	心理療法論	3		2		
	精神分析学	3		2		
	司法・犯罪心理学	3		2		
	隣接関連	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）		2	2	
		精神医学概論（精神疾患とその治療）		3	2	
		福祉心理学	3	2		
		犯罪の行動科学	3	2		
		刑事政策論	2	2		
		刑事法	2	2		
	実習・演習科目	公認心理師の職責	2	2		
		心理実習	3	2	「心理実習」の実習時間数は80時間以上とする。	
		心理学文献講読	2	2		
		心理学英語文献講読	3	2		
		心理学データ解析	2	2		
心理学実践研究（事例研究）		2	2			
心理学調査法（心理学研究Ⅰ）		2	2			
心理学実験法（心理学研究Ⅱ）		2	2			
心理学観察法（心理学研究Ⅲ）		2	2			
心理学面接法（心理学研究Ⅳ）		2	2			
心理的アセスメント	3	2				

人間環境学部心理学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
歴史・文化環境科目	言語表現論	1		2		複数回履修可。
	日本美術文化論Ⅰ	1		2		
	日本美術文化論Ⅱ	1		2		
	日本美術文化論Ⅲ	2		2		
	日本美術文化論Ⅳ	2		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅰ	1		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅱ	1		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅲ	2		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅳ	2		2		
	中国の歴史と文化Ⅰ	1		2		
	中国の歴史と文化Ⅱ	1		2		
	中国の歴史と文化Ⅲ	2		2		
	中国の歴史と文化Ⅳ	2		2		
授業科目の概要 自然・社会環境科目	共同フィールドワーク	1		1		
	地域連携ワーク	1		1		
	地域課題解決実習	1		1		
	海洋ダイビング実習	1		1		
	環境リスク概論	1		2		
	生態学のフロンティア	1		1		
	環境昆虫学	2		2		
	データサイエンス概論	2		2		
	社会調査概論	1		2		
	ソーシャルリサーチ&プランニング	1		2		
	基礎数学	2		2		
	自然地理学	2		2		
	統計処理法	2		4		
	生態系の機能と社会	1		2		
	環境と生物の進化	1		2		
	海と川の生物学入門	1		2		
	基礎生物学	2		2		
	緑化・栽培概論	2		2		
	植物生態学	2		2		
	動物生態学	2		2		
	地球環境の化学像	1		2		
	物質循環とエネルギー	2		4		
	水環境での物質循環	2		4		
	現代社会と経済	1		2		
	経営学概論	1		2		
	企業会計Ⅰ	1		2		
	企業会計Ⅱ	1		2		
	環境問題と基本的人権	1		2		
	環境倫理	2		2		
	経済学概論	1		2		
	環境経営	2		2		
	ゲーム理論	2		2		
	環境思想	2		2		
総合演習Ⅰ	3		2			
総合演習Ⅱ	3		2			
総合演習Ⅲ	4		2			
総合演習Ⅳ	4		2			
卒業論文	4		6			

人間環境学部心理学科【別表1】

	授業科目の名称	配当年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	人間環境学	1	2			複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は2単位まで。 複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は1単位まで。
	基礎ゼミナールⅠ	1	2			
	基礎ゼミナールⅡ	1	2			
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1		2		
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2		1		
	キャリアデザイン	1	2			
	ビジネスコミュニケーション	3		2		
	キャリア形成演習	3		1		
	キャリア教養基礎	1		1		
	情報実習Ⅰ	1	1			
	情報実習Ⅱ	1	1			
	スポーツ実習	1		1		
	英語Ⅰ	1	2			
	英語Ⅱ	1	2			
	英語Ⅲ	2		2		
	英語Ⅳ	2		2		
	英会話Ⅰ	1		2		
	英会話Ⅱ	1		2		
	ドイツ語Ⅰ	1		2		
	ドイツ語Ⅱ	1		2		
	中国語Ⅰ	1		2		
	中国語Ⅱ	1		2		
	4大学単位互換科目A	1		2		
	4大学単位互換科目B	1		2		
	4大学単位互換科目C	1		2		
	4大学単位互換科目D	1		2		
	4大学単位互換科目E	1		2		
	4大学単位互換科目F	1		2		
	4大学単位互換科目G	1		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅰ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅱ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅲ	2		2		
	単位互換履修生科目B-Ⅰ	2		4		
単位互換履修生科目B-Ⅱ	2		4			
単位互換履修生科目B-Ⅲ	2		4			
精神環境科目	心理学基礎科目	心理学概論	1	2		
		心理学研究法	1	2		
		心理学統計法	1	2		
		心理学基礎実験実習Ⅰ	2		1	
		心理学基礎実験実習Ⅱ	2		1	
		心理検査実習Ⅰ	2		1	
		心理検査実習Ⅱ	2		1	
		心理演習Ⅰ	3		1	
		心理演習Ⅱ	3		1	

人間環境学部心理学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	心理学発展科目	基礎心理学関連	学習・言語心理学	2	2	
		比較心理学	3	2		
		感情・人格心理学Ⅰ（感情心理学）	3	2		
		知覚・認知心理学	2	2		
		神経・生理心理学	3	2		
		発達心理学関連	教育心理学	1	2	
		教育・学校心理学Ⅰ（教育心理学）	1	2		
		発達心理学	1	2		
		生涯発達心理学	2	2		
		障害者・障害児心理学	2	2		
		青年心理学	3	2		
		教育・学校心理学Ⅱ（学校心理学）	3	2		
	社会・産業心理学関連	社会・集団・家族心理学	2	2		
	関係行政論	2	2			
	対人関係論	2	2			
	マスメディア心理学	3	2			
	産業・組織心理学Ⅰ（産業心理学）	3	2			
	産業・組織心理学Ⅱ（組織心理学）	3	2			
	臨床心理学関連	臨床心理学概論	1	2		
	感情・人格心理学Ⅱ（人格心理学）	2	2			
	発達臨床心理学	2	2			
	健康・医療心理学	3	2			
	心理学的支援法（カウンセリング心理学）	3	2			
	心理療法論	3	2			
	精神分析学	3	2			
	司法・犯罪心理学	3	2			
	隣接関連	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	2	2		
	精神医学概論（精神疾患とその治療）	3	2			
	福祉心理学	3	2			
	犯罪の行動科学	3	2			
	刑事政策論	2	2			
	刑事法	2	2			
	供述心理学	2	2			
	実習・演習科目	公認心理師の職責	2	2		
		心理実習	3	2	「心理実習」の実習時間数は80時間以上とする。	
		心理学文献講読	2	2		
		心理学英語文献講読	3	2		
		心理学データ解析	2	2		
		心理学実践研究（事例研究）	2	2		
		心理学調査法（心理学研究Ⅰ）	2	2		
		心理学実験法（心理学研究Ⅱ）	2	2		
		心理学観察法（心理学研究Ⅲ）	2	2		
心理学面接法（心理学研究Ⅳ）		2	2			
心理的アセスメント	3	2				

人間環境学部心理学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
歴史・文化環境科目	言語表現論	1		2		複数回履修可。
	日本美術文化論Ⅰ	1		2		
	日本美術文化論Ⅱ	1		2		
	日本美術文化論Ⅲ	2		2		
	日本美術文化論Ⅳ	2		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅰ	1		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅱ	1		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅲ	2		2		
	日本の言語芸術と文化Ⅳ	2		2		
	中国の歴史と文化Ⅰ	1		2		
	中国の歴史と文化Ⅱ	1		2		
	中国の歴史と文化Ⅲ	2		2		
	中国の歴史と文化Ⅳ	2		2		
授業科目の概要 自然・社会環境科目	共同フィールドワーク	1		1		
	地域連携ワーク	1		1		
	地域課題解決実習	1		1		
	海洋ダイビング実習	1		1		
	環境リスク概論	1		2		
	生態学のフロンティア	1		1		
	環境昆虫学	2		2		
	データサイエンス概論	2		2		
	社会調査概論	1		2		
	ソーシャルリサーチ&プランニング	1		2		
	基礎数学	2		2		
	自然地理学	2		2		
	統計処理法	2		4		
	生態系の機能と社会	1		2		
	環境と生物の進化	1		2		
	海と川の生物学入門	1		2		
	基礎生物学	2		2		
	緑化・栽培概論	2		2		
	植物生態学	2		2		
	動物生態学	2		2		
	地球環境の化学像	1		2		
	物質循環とエネルギー	2		4		
	水環境での物質循環	2		4		
	現代社会と経済	1		2		
	経営学概論	1		2		
	企業会計Ⅰ	1		2		
	企業会計Ⅱ	1		2		
	環境問題と基本的人権	1		2		
	環境倫理	2		2		
	経済学概論	1		2		
環境経営	2		2			
ゲーム理論	2		2			
環境思想	2		2			
	総合演習Ⅰ	3	2			
	総合演習Ⅱ	3	2			
	総合演習Ⅲ	4	2			
	総合演習Ⅳ	4	2			
	卒業論文	4	6			

人間環境大学人間環境学部環境科学科 教育課程および履修方法に関する規程

(準拠)

第 1 条 この規程は、人間環境大学学則第 29 条に基づき教育課程および履修方法について定める。

- 2 編入学又は転入学を許可された者の履修方法については別に定める。
- 3 大学院の教育課程および履修方法については、別に定める。

(授業科目の区分)

第 2 条 授業科目は、以下の科目に区分する。

- (1) 学部共通科目
- (2) 自然・社会環境科目
- (3) 精神環境科目
- (4) 歴史・文化環境科目
- (5) 卒業論文

(卒業単位)

第 3 条 本学を卒業するためには、前条に定める科目群から以下の必要単位数を含め 126 単位以上を修得しなければならない。

- (1) 学部共通科目 14 単位以上
ただし、必修科目 14 単位を含むこと。
- (2) 自然・社会環境科目 68 単位以上
 - イ 自然・社会環境共通科目 12 単位以上
ただし、必修科目 12 単位を含むこと。
 - ロ 自然環境科目ならびに社会環境科目 56 単位以上
ただし、以下の a、b、c、d のいずれかの要件を満たすこと。
 - a 自然環境科目から自然環境共通科目 12 単位および生態系基本科目 18 単位および生態系（動物）科目 8 単位、ならびに社会環境科目から 12 単位
 - b 自然環境科目から自然環境共通科目 12 単位および生態系基本科目 18 単位および生態系（植物）科目 8 単位、ならびに社会環境科目から 12 単位
 - c 自然環境科目から自然環境共通科目 12 単位および物質循環科目 28 単位、ならびに社会環境科目から 12 単位
 - d 自然環境科目から 8 単位、ならびに社会環境科目から社会環境基本科目 38 単位
- (3) 精神環境科目 8 単位以上
- (4) 歴史・文化環境科目 8 単位以上
- (5) 卒業論文 6 単位

(領域の選択)

第 4 条 2 年次に生態系領域、物質循環領域、社会環境領域のいずれかを選択する。

- 2 2 年次に生態系領域を選択した場合、3 年次に生態系（動物）領域、生態系（植物）領域のいずれかを選択する。

(開設授業科目)

第 5 条 本学が開設する授業科目は、別表 1 のとおりとする。

(履修科目の登録の上限と制限)

第 6 条 1 年間に履修科目として登録できる単位数は 46 単位以下とする。なお、前年度の GPA が 3.50 以上の場合、登録できる単位数は 50 単位以下とする。また、前年度の GPA が 0.70 未満の場合、登録できる単位数は 45 単位以下とする。

- 2 3 年次配当の演習科目を履修する為には、前年度までに 40 単位以上の修得かつ通算 GPA0.43 以上であることを条件とし、4 年次以上の学生は前年度までに 40 単位以上を修得することのみ条件とする。
- 3 演習は、I、II、III、IV の順番で修得することとし、同時に、又は飛び越えて履修することはできない。なお、前項の条件に満たない場合は 4 年の在学期間での卒業が

【平成 31 年度以降入学生用】

不可となる。

(成績)

第 7 条 学則第 34 条に定める成績は、下記の評価基準により認定する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
100～90 点	S	合格	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80 点	A		学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70 点	B		学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60 点	C		学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60 点未満	D	不合格	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

2 学則以外に定める評価は、下記の基準により実施する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
試験欠席	E	不合格	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄	F		出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	N	認定	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

(総合成績評価)

第 8 条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
D	0
E	0
F	0
N	対象外

2 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$

3 成績証明書には、GPA は明記しない。

4 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。

- (1)成績の評価点が認定となる科目
- (2)定められた期間に履修取り消しの手続きをした科目
- (3)その他、卒業要件に算入されない科目

(規程の改廃)

第 9 条 この規程の改廃は、人間環境学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附則 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	学部共通科目	人間環境学	1	2		複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は2単位まで。 複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は1単位まで。
		基礎ゼミナールⅠ	1	2		
		基礎ゼミナールⅡ	1	2		
		海外大学単位互換科目Ⅰ	1		2	
		海外大学単位互換科目Ⅱ	2		1	
		キャリアデザイン	1	2		
		ビジネスコミュニケーション	3		2	
		キャリア形成演習	3		1	
		キャリア教養基礎	1		1	
		情報実習Ⅰ	1	1		
		情報実習Ⅱ	1	1		
		スポーツ実習	1		1	
		英語Ⅰ	1	2		
		英語Ⅱ	1	2		
		英語Ⅲ	2		2	
		英語Ⅳ	2		2	
		英会話Ⅰ	1		2	
		英会話Ⅱ	1		2	
		ドイツ語Ⅰ	1		2	
		ドイツ語Ⅱ	1		2	
		中国語Ⅰ	1		2	
		中国語Ⅱ	1		2	
		4大学単位互換科目A	1		2	
		4大学単位互換科目B	1		2	
		4大学単位互換科目C	1		2	
		4大学単位互換科目D	1		2	
		4大学単位互換科目E	1		2	
		4大学単位互換科目F	1		2	
		4大学単位互換科目G	1		2	
		単位互換履修生科目A-Ⅰ	2		2	
	単位互換履修生科目A-Ⅱ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅲ	2		2		
	単位互換履修生科目B-Ⅰ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅱ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅲ	2		4		
	自然・社会環境科目	自然・社会環境共通科目	共同フィールドワーク	1		1
森林管理実習			1		1	複数回履修可。
森林管理実習B			1		1	
地域連携ワーク			1		1	
地域課題解決実習			1		1	複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は1単位まで。
森林管理実習A			1		1	
海と川の生物学入門			1		2	
海洋ダイビング実習			1		1	
生態学のフロンティア			1		1	
潮間帯リサーチ入門			2		1	
環境昆虫学			2		2	
データサイエンス概論			2		2	
社会調査概論			1		2	
ソーシャル&リサーチプランニング			1		2	
環境情報と社会			1		2	
学術論文講読Ⅰ			2	2		
学術論文講読Ⅱ	2	2				

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
自然・社会環境共通科目	農業基礎実習Ⅰ	2		2			
	農業基礎実習Ⅱ	2		2			
	動物園・水族館実習	2		1			
	エコ・フィールド社会実習	2		2			
	水族館展示実習	2		1			
	演習Ⅰ	3	2				
	演習Ⅱ	3	2				
	演習Ⅲ	4	2				
	演習Ⅳ	4	2				
	インターンシップ	3		1			
	農業・情報キャリア論	2		2			
	ビジネス英語	2		2			
環境と多文化共生	2		2				
自然環境共通科目	環境リスク概論	1		2			
	基礎数学	2		2			
	自然地理学	2		2			
	統計処理法	2		4			
	地理情報処理法	3		2			
	生態系基本科目	生態系の機能と社会	1		2		
		環境と生物の進化	1		2		
		基礎生物学	2		2		
		緑化・栽培概論	2		2		
		緑地・植物学基礎実習	2		2		
		植物生態学	2		2		
		動物生態学	2		2		
動物学基礎実習		2		2			
生物多様性		3		2			
動物行動学		3		2			
自然環境科目	野生動物保全学	3		2			
	動物学実習	3		2			
	人間動物関係学	3		2			
	植物学実習	3		2			
	植物形態・分類学	3		2			
	緑地管理学	3		2			
	緑地学実習	3		2			
	栽培学実習	3		2			
	物質循環科目	地球環境の化学像	1		2		
		物質循環とエネルギー	2		4		
基礎化学実験Ⅰ		2		2			
基礎化学実験Ⅱ		2		2			
水環境での物質循環		2		4			
森林と土壌環境での物質循環		3		4			
環境化学実験Ⅰ		3		2			
環境化学実験Ⅱ		3		2			
土壌圏保全論		3		2			
生態毒性		3		4			
社会環境基本科目	現代社会と経済	1		2			
	企業会計Ⅰ	1		2			
	企業会計Ⅱ	1		2			
	経営学概論	1		2			
	経済学概論	1		2			
	環境経済学Ⅰ	2		2			
	環境経済学Ⅱ	2		2			

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
授業科目の概要	自然・社会環境科目 社会環境基本科目	環境経営	2	2			
		現代企業論	2	2			
		金融	2	2			
		財政	2	2			
		国際協力論	2	2			
		環境と開発	2	2			
		地域経済	2	2			
		環境法制	3	2			
		経営分析	3	2			
		エネルギーと文明史	3	2			
		環境政策	3	2			
		産業構造論	3	2			
		社会環境科目	環境問題と基本的人権	1	2		
		環境倫理	2	2			
		ゲーム理論	2	2			
		社会調査法Ⅰ	2	2			
		社会調査法Ⅱ	2	2			
		簿記論Ⅰ	2	2			
		簿記論Ⅱ	2	2			
	環境思想	2	2				
	経済学史Ⅰ	3	2				
	経済学史Ⅱ	3	2				
	ソーシャルビジネス論	3	2				
	水と緑の政策	3	2				
	環境社会学	3	2				
	山地災害論	3	2				
	歴史・文化環境科目	言語表現論	1	2			
		日本美術文化論Ⅰ	1	2			
		日本美術文化論Ⅱ	1	2			
		日本美術文化論Ⅲ	2	2			
		日本美術文化論Ⅳ	2	2			
		日本の言語芸術と文化Ⅰ	1	2			
日本の言語芸術と文化Ⅱ		1	2				
日本の言語芸術と文化Ⅲ		2	2				
日本の言語芸術と文化Ⅳ		2	2				
中国の歴史と文化Ⅰ		1	2				
中国の歴史と文化Ⅱ		1	2				
中国の歴史と文化Ⅲ		2	2				
中国の歴史と文化Ⅳ		2	2				

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	精神環境科目	心理学概論	1	2		
		心理学研究法	1	2		
		教育・学校心理学Ⅰ（教育心理学）	1	2		
		心理学統計法	1	2		
		発達心理学	1	2		
		臨床心理学概論	1	2		
		学習・言語心理学	2	2		
		社会・集団・家族心理学	2	2		
		感情・人格心理学Ⅱ（人格心理学）	2	2		
		対人関係論	2	2		
		感情・人格心理学Ⅰ（感情心理学）	3	2		
		青年心理学	3	2		
		マスメディア心理学	3	2		
		産業・組織心理学Ⅰ（産業心理学）	3	2		
		健康・医療心理学	3	2		
		知覚・認知心理学	2	2		
		教育・学校心理学Ⅱ（学校心理学）	3	2		
		産業・組織心理学Ⅱ（組織心理学）	3	2		
	卒業論文	4	6			

人間環境大学人間環境学部環境科学科 教育課程および履修方法に関する規程

(準拠)

第 1 条 この規程は、人間環境大学学則第 29 条に基づき教育課程および履修方法について定める。

- 2 編入学又は転入学を許可された者の履修方法については別に定める。
- 3 大学院の教育課程および履修方法については、別に定める。

(授業科目の区分)

第 2 条 授業科目は、以下の科目に区分する。

- (1) 学部共通科目
- (2) 自然・社会環境科目
- (3) 精神環境科目
- (4) 歴史・文化環境科目
- (5) 卒業論文

(卒業単位)

第 3 条 本学を卒業するためには、前条に定める科目群から以下の必要単位数を含め 126 単位以上を修得しなければならない。

- (1) 学部共通科目 14 単位以上
ただし、必修科目 14 単位を含むこと。
- (2) 自然・社会環境科目 68 単位以上
 - イ 自然・社会環境共通科目 12 単位以上
ただし、必修科目 12 単位を含むこと。
 - ロ 自然環境科目ならびに社会環境科目 56 単位以上
ただし、以下の a、b、c、d のいずれかの要件を満たすこと。
 - a 自然環境科目から自然環境共通科目 12 単位および生態系基本科目 18 単位および生態系（動物）科目 8 単位、ならびに社会環境科目から 12 単位
 - b 自然環境科目から自然環境共通科目 12 単位および生態系基本科目 18 単位および生態系（植物）科目 8 単位、ならびに社会環境科目から 12 単位
 - c 自然環境科目から自然環境共通科目 12 単位および物質循環科目 28 単位、ならびに社会環境科目から 12 単位
 - d 自然環境科目から 8 単位、ならびに社会環境科目から社会環境基本科目 38 単位
- (3) 精神環境科目 8 単位以上
- (4) 歴史・文化環境科目 8 単位以上
- (5) 卒業論文 6 単位

(領域の選択)

第 4 条 2 年次に生態系領域、物質循環領域、社会環境領域のいずれかを選択する。

- 2 2 年次に生態系領域を選択した場合、3 年次に生態系（動物）領域、生態系（植物）領域のいずれかを選択する。

(開設授業科目)

第 5 条 本学が開設する授業科目は、別表 1 のとおりとする。

(履修科目の登録の上限と制限)

第 6 条 1 年間に履修科目として登録できる単位数は 46 単位以下とする。なお、前年度の GPA が 3.50 以上の場合、登録できる単位数は 50 単位以下とする。

- 2 3 年次配当の演習科目を履修する為には、前年度までに 40 単位以上を修得する。
- 3 演習は、I、II、III、IV の順番で修得することとし、同時に、又は飛び越えて履修

することはできない。

(成績)

第 7 条 学則第 34 条に定める成績は、下記の評価基準により認定する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
100～90 点	S	合格	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80 点	A		学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70 点	B		学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60 点	C		学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60 点未満	D	不合格	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

2 学則以外に定める評価は、下記の基準により実施する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
試験欠席	E	不合格	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄	F		出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	N	認定	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

(総合成績評価)

第 8 条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、総合成績評価を行う。

評語	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
D	0
E	0
F	0
N	対象外

2 GPA を算出する基準は、次のとおりとする。

$GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{履修登録した授業科目の単位数の総和})$

3 成績証明書には、GPA は明記しない。

4 GPA 対象外授業科目は、次のとおりとする。

- (1)成績の評価点が認定となる科目
- (2)定められた期間に履修取り消しの手続きをした科目
- (3)その他、卒業要件に算入されない科目

(規程の改廃)

第 9 条 この規程の改廃は、人間環境学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附則 この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規程 (別表改正) は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

【平成 29 年度・30 年度入学生用】

附則 この規程（別表改正）は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	学部 共通科目	人間環境学	1	2		複数回履修可。但し卒業要件に算入 できる単位は2単位まで。 複数回履修可。但し卒業要件に算入 できる単位は1単位まで。
		基礎ゼミナールⅠ	1	2		
		基礎ゼミナールⅡ	1	2		
		海外大学単位互換科目Ⅰ	1		2	
		海外大学単位互換科目Ⅱ	2		1	
		キャリアデザイン	1	2		
		ビジネスコミュニケーション	3		2	
		キャリア形成演習	3		1	
		キャリア教養基礎	1		1	
		情報実習Ⅰ	1	1		
		情報実習Ⅱ	1	1		
		スポーツ実習	1		1	
		英語Ⅰ	1	2		
		英語Ⅱ	1	2		
		英語Ⅲ	2		2	
		英語Ⅳ	2		2	
		英会話Ⅰ	1		2	
		英会話Ⅱ	1		2	
		ドイツ語Ⅰ	1		2	
		ドイツ語Ⅱ	1		2	
		中国語Ⅰ	1		2	
		中国語Ⅱ	1		2	
		4大学単位互換科目A	1		2	
		4大学単位互換科目B	1		2	
		4大学単位互換科目C	1		2	
		4大学単位互換科目D	1		2	
		4大学単位互換科目E	1		2	
		4大学単位互換科目F	1		2	
		4大学単位互換科目G	1		2	
		単位互換履修生科目A-Ⅰ	2		2	
	単位互換履修生科目A-Ⅱ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅲ	2		2		
	単位互換履修生科目B-Ⅰ	2		4		
単位互換履修生科目B-Ⅱ	2		4			
単位互換履修生科目B-Ⅲ	2		4			
自然・社会環境科目	自然・社会環境 共通科目	共同フィールドワーク	1	1		複数回履修可。
		地域連携ワーク	1	1		
		地域課題解決実習	1	1		
		森林管理実習	1		1	複数回履修可。但し卒業要件に算入 できる単位は1単位まで。
		海と川の生物学入門	1		2	
		海洋ダイビング実習	1		1	
		生態学のフロンティア	1		1	
		潮間帯リサーチ入門	2		1	
		環境昆虫学	2		2	
		データサイエンス概論	2		2	
		社会調査概論	1		2	
		ソーシャル&リサーチプランニング	1		2	
		環境情報と社会	1		2	
		学術論文講読Ⅰ	2	2		
		学術論文講読Ⅱ	2	2		
農業基礎実習Ⅰ	2		2			
農業基礎実習Ⅱ	2		2			

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
授業科目の概要	自然・社会環境共通科目	動物園・水族館実習	2	1			
		エコ・フィールド社会実習	2	2			
		水族館展示実習	2	1			
		演習Ⅰ	3	2			
		演習Ⅱ	3	2			
		演習Ⅲ	4	2			
		演習Ⅳ	4	2			
		インターンシップ	3	1			
		農業・情報キャリア論	2	2			
	自然環境共通科目	環境リスク概論	1	2			
		基礎数学	2	2			
		自然地理学	2	2			
		統計処理法	2	4			
		地理情報処理法	3	2			
		生態系基本科目	生態系の機能と社会	1	2		
			環境と生物の進化	1	2		
			基礎生物学	2	2		
			緑化・栽培概論	2	2		
	緑地・植物学基礎実習		2	2			
	植物生態学		2	2			
	動物生態学		2	2			
	動物学基礎実習		2	2			
	生物多様性		3	2			
	自然環境科目	動物行動学	3	2			
		野生動物保全学	3	2			
		動物学実習	3	2			
		人間動物関係学	3	2			
		植物学実習	3	2			
		植物形態・分類学	3	2			
		緑地管理学	3	2			
		緑地学実習	3	2			
		栽培学実習	3	2			
	物質循環科目	地球環境の化学像	1	2			
		物質循環とエネルギー	2	4			
		基礎化学実験Ⅰ	2	2			
		基礎化学実験Ⅱ	2	2			
		水環境での物質循環	2	4			
		森林と土壌環境での物質循環	3	4			
		環境化学実験Ⅰ	3	2			
		環境化学実験Ⅱ	3	2			
		土壌圏保全論	3	2			
	生態毒性	3	4				

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	自然・社会環境科目 社会環境基本科目 社会環境科目	現代社会と経済	1	2		
		企業会計Ⅰ	1	2		
		企業会計Ⅱ	1	2		
		経営学概論	1	2		
		経済学概論	1	2		
		環境経済学Ⅰ	2	2		
		環境経済学Ⅱ	2	2		
		環境経営	2	2		
		現代企業論	2	2		
		金融	2	2		
		財政	2	2		
		国際協力論	2	2		
		環境と開発	2	2		
		地域経済	2	2		
		環境法制	3	2		
		経営分析	3	2		
		エネルギーと文明史	3	2		
		環境政策	3	2		
		産業構造論	3	2		
		環境問題と基本的人権	1	2		
	環境倫理	2	2			
	ゲーム理論	2	2			
	社会調査法Ⅰ	2	2			
	社会調査法Ⅱ	2	2			
	簿記論Ⅰ	2	2			
	簿記論Ⅱ	2	2			
	環境思想	2	2			
	経済学史Ⅰ	3	2			
	経済学史Ⅱ	3	2			
	ソーシャルビジネス論	3	2			
	水と緑の政策	3	2			
	環境社会学	3	2			
	山地災害論	3	2			
	歴史・文化環境科目	言語表現論	1	2		
		日本美術文化論Ⅰ	1	2		
		日本美術文化論Ⅱ	1	2		
日本美術文化論Ⅲ		2	2			
日本美術文化論Ⅳ		2	2			
日本の言語芸術と文化Ⅰ		1	2			
日本の言語芸術と文化Ⅱ		1	2			
日本の言語芸術と文化Ⅲ		2	2			
日本の言語芸術と文化Ⅳ		2	2			
中国の歴史と文化Ⅰ		1	2			
中国の歴史と文化Ⅱ		1	2			
中国の歴史と文化Ⅲ		2	2			
中国の歴史と文化Ⅳ	2	2				

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	精神環境科目	心理学概論	1	2		
		心理学研究法	1	2		
		教育・学校心理学Ⅰ（教育心理学）	1	2		
		心理学統計法	1	2		
		発達心理学	1	2		
		臨床心理学概論	1	2		
		学習・言語心理学	2	2		
		社会・集団・家族心理学	2	2		
		感情・人格心理学Ⅱ（人格心理学）	2	2		
		対人関係論	2	2		
		感情・人格心理学Ⅰ（感情心理学）	3	2		
		青年心理学	3	2		
		マスメディア心理学	3	2		
		産業・組織心理学Ⅰ（産業心理学）	3	2		
		健康・医療心理学	3	2		
		知覚・認知心理学	2	2		
		教育・学校心理学Ⅱ（学校心理学）	3	2		
産業・組織心理学Ⅱ（組織心理学）	3	2				
	卒業論文	4	6			

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	学部共通科目	人間環境学	1	2		複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は2単位まで。 複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は1単位まで。
		基礎ゼミナールⅠ	1	2		
		基礎ゼミナールⅡ	1	2		
		海外大学単位互換科目Ⅰ	1		2	
		海外大学単位互換科目Ⅱ	2		1	
		キャリアデザイン	1	2		
		ビジネスコミュニケーション	3		2	
		キャリア形成演習	3		1	
		キャリア教養基礎	1		1	
		情報実習Ⅰ	1	1		
		情報実習Ⅱ	1	1		
		スポーツ実習	1		1	
		英語Ⅰ	1	2		
		英語Ⅱ	1	2		
		英語Ⅲ	2		2	
		英語Ⅳ	2		2	
		英会話Ⅰ	1		2	
		英会話Ⅱ	1		2	
		ドイツ語Ⅰ	1		2	
		ドイツ語Ⅱ	1		2	
		中国語Ⅰ	1		2	
		中国語Ⅱ	1		2	
		4大学単位互換科目A	1		2	
		4大学単位互換科目B	1		2	
		4大学単位互換科目C	1		2	
		4大学単位互換科目D	1		2	
		4大学単位互換科目E	1		2	
		4大学単位互換科目F	1		2	
		4大学単位互換科目G	1		2	
		単位互換履修生科目A-Ⅰ	2		2	
	単位互換履修生科目A-Ⅱ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅲ	2		2		
	単位互換履修生科目B-Ⅰ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅱ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅲ	2		4		
	自然・社会環境科目	自然・社会環境共通科目	共同フィールドワーク	1		1
地域連携ワーク			1		1	
地域課題解決実習			1		1	
森林管理実習			1		1	複数回履修可。但し卒業要件に算入できる単位は1単位まで。
海と川の生物学入門			1		2	
海洋ダイビング実習			1		1	
生態学のフロンティア			1		1	
潮間帯リサーチ入門			2		1	
環境昆虫学			2		2	
データサイエンス概論			2		2	
社会調査概論			1		2	
ソーシャル&リサーチプランニング			1		2	
環境情報と社会			1		2	
学術論文講読Ⅰ			2	2		
学術論文講読Ⅱ			2	2		
農業基礎実習Ⅰ	2		2			
農業基礎実習Ⅱ	2		2			

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考	
			必修	選択	自由		
授業科目の概要	自然・社会環境共通科目	動物園・水族館実習	2	1			
		エコ・フィールド社会実習	2	2			
		水族館展示実習	2	1			
		演習Ⅰ	3	2			
		演習Ⅱ	3	2			
		演習Ⅲ	4	2			
		演習Ⅳ	4	2			
		インターンシップ	3		1		
		農業・情報キャリア論	2		2		
	自然環境共通科目	環境リスク概論	1		2		
		基礎数学	2		2		
		自然地理学	2		2		
		統計処理法	2		4		
		地理情報処理法	3		2		
		生態系基本科目	生態系の機能と社会	1		2	
			環境と生物の進化	1		2	
			基礎生物学	2		2	
			緑化・栽培概論	2		2	
	緑地・植物学基礎実習		2		2		
	植物生態学		2		2		
	動物生態学		2		2		
	動物学基礎実習		2		2		
	生物多様性		3		2		
	自然環境科目	動物行動学	3		2		
		野生動物保全学	3		2		
		動物学実習	3		2		
		人間動物関係学	3		2		
		植物学実習	3		2		
		植物形態・分類学	3		2		
		緑地管理学	3		2		
		緑地学実習	3		2		
		栽培学実習	3		2		
	物質循環科目	地球環境の化学像	1		2		
		物質循環とエネルギー	2		4		
		基礎化学実験Ⅰ	2		2		
		基礎化学実験Ⅱ	2		2		
		水環境での物質循環	2		4		
		森林と土壌環境での物質循環	3		4		
		環境化学実験Ⅰ	3		2		
		環境化学実験Ⅱ	3		2		
		土壌圏保全論	3		2		
	社会環境基本科目	生態毒性	3		4		
現代社会と経済		1		2			
企業会計Ⅰ		1		2			
企業会計Ⅱ		1		2			
経営学概論		1		2			
経済学概論		1		2			
環境経済学Ⅰ		2		2			
環境経済学Ⅱ		2		2			
環境経営	2		2				

人間環境学部環境科学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	自然・社会環境科目 社会環境基本科目	現代企業論	2	2		
		金融	2	2		
		財政	2	2		
		国際協力論	2	2		
		環境と開発	2	2		
		地域経済	2	2		
		環境法制	3	2		
		経営分析	3	2		
		エネルギーと文明史	3	2		
		環境政策	3	2		
		産業構造論	3	2		
		環境問題と基本的人権	1	2		
		環境倫理	2	2		
		ゲーム理論	2	2		
		社会調査法Ⅰ	2	2		
		社会調査法Ⅱ	2	2		
		簿記論Ⅰ	2	2		
		簿記論Ⅱ	2	2		
		環境思想	2	2		
	経済学史Ⅰ	3	2			
	経済学史Ⅱ	3	2			
	ソーシャルビジネス論	3	2			
	水と緑の政策	3	2			
	環境社会学	3	2			
	山地災害論	3	2			
	歴史・文化環境科目	言語表現論	1	2		
		日本美術文化論Ⅰ	1	2		
		日本美術文化論Ⅱ	1	2		
		日本美術文化論Ⅲ	2	2		
		日本美術文化論Ⅳ	2	2		
		日本の言語芸術と文化Ⅰ	1	2		
		日本の言語芸術と文化Ⅱ	1	2		
		日本の言語芸術と文化Ⅲ	2	2		
日本の言語芸術と文化Ⅳ		2	2			
中国の歴史と文化Ⅰ		1	2			
中国の歴史と文化Ⅱ		1	2			
中国の歴史と文化Ⅲ	2	2				
中国の歴史と文化Ⅳ	2	2				
精神環境科目	心理学概論	1	2			
	心理学研究法	1	2			
	教育心理学	1	2			
	心理学統計法	1	2			
	発達心理学	1	2			
	臨床心理学概論	1	2			
	学習・言語心理学	2	2			
	社会・集団・家族心理学	2	2			
	感情・人格心理学Ⅱ（人格心理学）	2	2			
	対人関係論	2	2			
	感情・人格心理学Ⅰ（感情心理学）	3	2			
	青年心理学	3	2			
	マスメディア心理学	3	2			
	産業・組織心理学Ⅰ（産業心理学）	3	2			
健康・医療心理学	3	2				

人間環境学部環境科学科【別表1】

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
授業科目の概要	精神環境	知覚・認知心理学	2		2		
		教育・学校心理学Ⅱ（学校心理学）	3		2		
		産業・組織心理学Ⅱ（組織心理学）	3		2		
	卒業論文	4	6				

人間環境大学人間環境学部 転・編入生の履修方法に関する規程

(準拠)

第1条 この規程は、「人間環境大学学則」第29条および「人間環境大学人間環境学部心理学科教育課程および履修方法に関する規程」第1条第2項および「人間環境大学人間環境学部環境科学科教育課程および履修方法に関する規程」第1条第2項の規定に基づき転・編入生の履修方法について定める。

2 人間環境大学人間環境学部人間環境学科における転・編入生の履修方法は別に定める。

(卒業単位)

第2条 3年次転・編入生は、本学を卒業するためには、本学入学以前に大学、短期大学、高等専門学校、専修学校等で修得し、本学において個別又は一括認定単位として認められた単位数(64単位を上限とする)を含め、本学教育課程の科目群から126単位以上を修得しなければならない。

2 2年次転・編入生は、本学を卒業するためには、本学入学以前に大学、短期大学、高等専門学校、専修学校等で修得し、本学において個別又は一括認定単位として認められた単位数(30単位を上限とする)を含め、本学教育課程の科目群から126単位以上を修得しなければならない。

3 前2項の本学が認定する単位数は、別表1のとおりとする。

(履修方法)

第3条 3年次転・編入生の履修方法は以下のとおりとする。

- (1) 人間環境学2単位を修得する。
- (2) 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、キャリアデザインの合計6単位の修得を必修とはしない。
- (3) 前条の認定単位のなかで、英語Ⅰ・Ⅱとして認定された科目が4単位に満たない場合は、その不足する単位を英語Ⅰおよび英語Ⅱの中から修得する。
- (4) 前条の認定単位のなかで、情報実習Ⅰ・Ⅱとして認定された科目が2単位に満たない場合は、その不足する単位を情報実習Ⅰおよび情報実習Ⅱの中から修得する。
- (5) 心理学科においては「自然・社会環境科目」および「歴史・文化環境科目」の科目も修得するように努めることが望ましく、環境科学科においては「精神環境科目」および「歴史・文化環境科目」の科目も修得するように努めることが望ましい。

2 2年次転・編入生の履修方法は以下のとおりとする。

- (1) 人間環境学2単位を修得する。
- (2) 基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ、キャリアデザインの合計6単位の修得を必修とはしない。
- (3) 前条の認定単位のなかで、英語Ⅰ・Ⅱとして認定された科目が4単位に満たない場合は、その不足する単位を英語Ⅰおよび英語Ⅱの中から修得する。
- (4) 前条の認定単位のなかで、情報実習Ⅰ・Ⅱとして認定された科目が2単位に満たない場合は、その不足する単位を情報実習Ⅰおよび情報実習Ⅱの中から修得する。
- (5) 心理学科においては「自然・社会環境科目」および「歴史・文化環境科目」の科目も修得するように努めることが望ましく、環境科学科においては「精神環境科目」および「歴史・文化環境科目」の科目も修得するように努めることが望ましい。

(その他)

第4条 本規程に定めるものの他、心理学科の教育課程および履修方法に関する事項は「人間環境大学人間環境学部心理学科教育課程および履修方法に関する規程」に準じ、環境科学科の教育課程および履修方法に関する事項は「人間環境大学人間環境学部環境科学科教育課程および履修方法に関する規程」に準ずる。

(規程の改廃)

第5条 この規程の改廃は、人間環境学部教授会の議を経て、学長が決定する。

別表 1)

【3年次転・編入生】

(心理学科)

科目区分	認定科目	単位認定方法	認定単位数の上限
学部共通科目		一括	8
	英語 I・II	個別	4
	情報実習 I・II	個別	2
精神環境科目		個別	34
自然・社会環境科目		一括	8
歴史・文化環境科目		一括	8
合計			64

(環境科学科)

科目区分	認定科目	単位認定方法	認定単位数の上限
学部共通科目		一括	8
	英語 I・II	個別	4
	情報実習 I・II	個別	2
自然・社会環境科目		個別	34
精神環境科目		一括	8
歴史・文化環境科目		一括	8
合計			64

【2年次転・編入生】

(心理学科)

科目区分	認定科目	単位認定方法	認定単位数の上限
学部共通科目		一括	8
	英語 I・II	個別	4
	情報実習 I・II	個別	2
自然・社会環境科目		一括	8
歴史・文化環境科目		一括	8
合計			30

(環境科学科)

科目区分	認定科目	単位認定方法	認定単位数の上限
学部共通科目		一括	8
	英語 I・II	個別	4
	情報実習 I・II	個別	2
精神環境科目		一括	8
歴史・文化環境科目		一括	8
合計			30

附則 この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

人間環境大学授業に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、人間環境大学学則および人間環境大学大学院学則にもとづく授業の実施に関し、必要な事項を定める。

(授業時間)

第2条 通常の授業時間は次のとおりとする。ただし、集中講義および変則授業時間は、学部、研究科でこれを定める。

学部・研究科 時限	人間環境学部/ 心理学部/ 環境科学部/ 人間環境学研究科	看護学部/ 看護学研究科	松山看護学部/ 松山看護学研究科	総合心理学部
第1時限	9:10~10:40	9:10~10:40	9:10~10:40	9:10~10:40
第2時限	10:50~12:20	10:50~12:20	10:50~12:20	10:50~12:20
第3時限	13:10~14:40	13:10~14:40	13:10~14:40	13:10~14:40
第4時限	14:50~16:20	14:50~16:20	14:50~16:20	14:50~16:20
第5時限	16:30~18:00	16:30~18:00	16:30~18:00	16:30~18:00
第6時限	—	18:10~19:40	18:10~19:40	—
第7時限	—	19:50~21:20	19:50~21:20	—

(気象警報が発令された場合およびその他の場合の授業の取扱)

第3条 暴風警報、暴風雪警報、または特別警報（高潮・波浪は除く）が発令された場合の授業の取り扱いは、別表1)のとおりとする。

なお、気象警報の発表、公共交通機関の運行への影響等を総合的に勘案し、学部長および研究科長の判断により、休講措置をとる場合がある。

(大規模地震の判定会が招集された場合の授業の取扱)

第4条 地震予知情報から「警戒宣言」の発令を検討する大規模地震の判定会が招集された場合は以下のように対応する。

(1) 判定会招集当日

- ・授業開始以前に招集された場合：授業は行わない。
- ・授業開始以後に招集された場合：招集があった時から授業は行わない。

(2) 判定会招集の翌日以降

- ・判定があるまで授業は行わない。

(3) 「警戒宣言」に至らないと判定された場合(防災準備行動をとる段階)を除く)

- ・午前6時まで判定された場合：平常の時間割のとおり授業を開始する。

(4) 「警戒宣言」が発令された場合および「防災準備行動をとる段階」と判断された場合

- ・解除されるまで授業は行わない。

(公共交通機関のストライキの場合)

第5条 公共交通機関でストライキの場合の授業の取り扱いは、別表2)のとおりとする。

(授業の休講・開始の情報)

第6条 第3条、4条、5条に関する授業の休講・開始については、学内掲示・学内放送・本学ホームページにより伝達する。ただし、これらにより伝達ができない場合があるときは、第4条および別表1・2に基づき、公共放送の情報から各自で適切に判断するものとする。

(公欠の定義)

第7条 公欠とは、次の各号のいずれかに該当する場合とする。

- (1) 養護実習Ⅱおよび関係機関が行う事前オリエンテーション出席のために、授業を欠席する場合
- (2) 「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」にもとづき学生が裁判員としての任務を果たす場合など、公の行事に参加する場合
- (3) 「学校保健安全法施行規則」第18条に定められた感染症による社会的影響を考慮して、大学が出校停止を命じた場合
- (4) 天災・事故等による公共交通機関の運休又は遅延(第3条の警報の解除、第4条の警戒宣言等の解除、第5条のストライキの終了後も続く公共交通機関の運休又は遅延、および第3条の警報の解除後も居住地域で警報が解除されないことによる公共交通機関の運休又は遅延を含む)によって授業を欠席した場合。
- (5) 第3条の警報が居住地域で発令され、出校できず授業を欠席した場合
- (6) 忌引きの場合
- (7) 教授会において、第1項第1号～第6号に準じて特段の取り扱いが必要であると認められた場合

(公欠の期間)

第8条 公欠を許可する期間は、次のとおりとする。

- (1) 前条第1号にあつては、実習に要する期間
- (2) 前条第2号にあつては、裁判所などの公の機関から指定された期間
- (3) 前条第3号にあつては、感染症による社会的影響を考慮して大学が出校停止を命じた期間
- (4) 前条第4号にあつては、当該公共交通機関の運行開始(遅延運行を含む)から2時間までとする。
- (5) 前条第5号にあつては当該居住地の警報解除から2時間とする。
- (6) 前条第6号にあつては、以下の期間

配偶者	夫・妻	10日以内
血族	1親等	7日以内
	2親等	3日以内
	3親等	1日以内
姻族	1親等	3日以内
	2親等および3親等	1日以内

- (7) 前条第7号にあつては、教学委員会(看護学部は教学・臨地実習委員会)において必要と認められた期間

2 学部長または研究科長は、遠隔地の場合またはその他特別の事由があると認めた場合、前項の日数に必要な日数を加えることができる。

(公欠の手続)

第9条 公欠の適用を受けようとする者は、次の手続を行わなければならない。

- (1) 第7条第1号、第2号または第5号にあつては、事前に所定の「欠席届(公欠願)」および期間が明記された「受け入れ先からの正式書類」を教務課に提出する。
- (2) 第7条第3号にあつては、所定の「欠席届(公欠願)」および期間が明記された医師が作成した「治癒証明書」又は「診断書」を教務課に提出する。
- (3) 第7条第4号にあつては、所定の「欠席届(公欠願)」および当該公共交通機関の運休により終日登校できない場合を除き、当該機関が発行する「遅延証明書」を教務課へ提出する。
- (4) 第7条第5号にあつては所定の「欠席届(公欠願)」を教務課へ提出する。
- (5) 第7条第6号にあつては、所定の「忌引願」および葬儀日等が明記された「会葬礼状」等の書類を教務課に提出する。

2 学部長または研究科長は、提出された書類の審査を行い、許可を決定した場合は、大学事務局より授業担当教員へ連絡する。

(公欠による授業の取扱)

第10条 授業担当者は、補講もしくは課題等を与えることにより、公欠を許可された期間を出席とすることができる。

(規程の改廃)

第 11 条 この規程の改廃は、運営会議の議を経て、学長が決定する。

附 則 この規程は、平成 25 年 12 月 18 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、平成 28 年 8 月 31 日から施行する。

附 則 1. この規程 (改正) は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2. 第 7 条第 1 号の規定は、平成 28 年度以前の入学生については改正後の規定にかかわらず、なお従前
のとおりとする。

附 則 この規程 (改正) は、平成 30 年 8 月 22 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和元年 11 月 20 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1)

<人間環境学部、心理学部、環境科学部および人間環境学研究科>

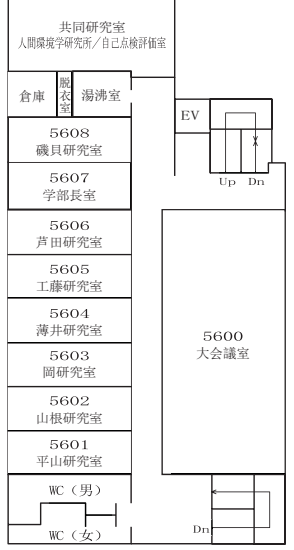
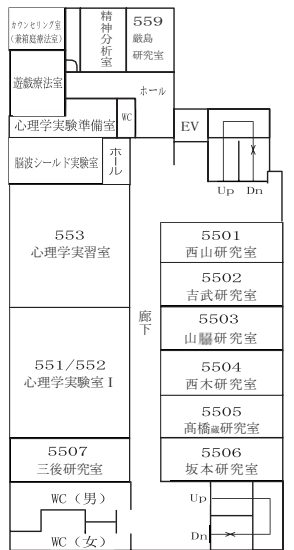
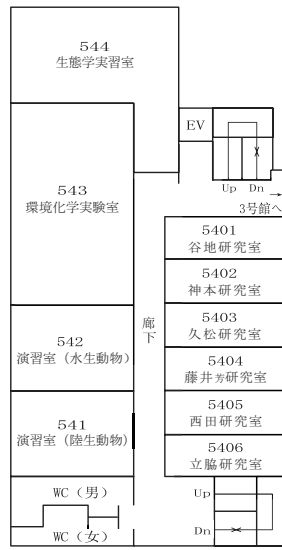
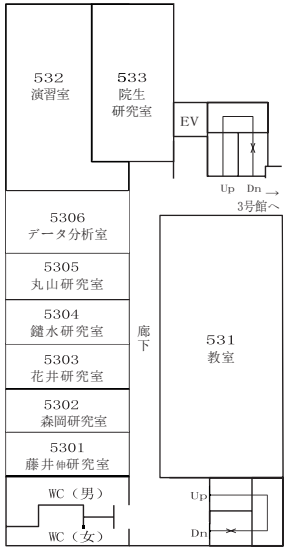
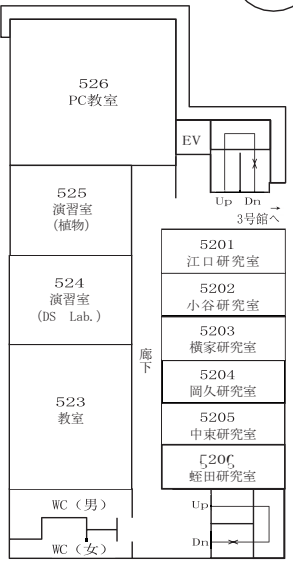
休講とする場合	1 愛知県西部のうち下表のいずれかの地域に暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が発令されている場合。				
	愛知県西部	<table border="1"> <tr> <td>知多地域</td> <td>半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町</td> </tr> <tr> <td>西三河南部</td> <td>岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、幸田町</td> </tr> </table>	知多地域	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町	西三河南部
知多地域	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町				
西三河南部	岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、幸田町				
	2 暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が午前 11 時までに解除されない場合。				
暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) 解除に伴う授業の開始	<p>1 暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が午前 7 時までに解除された場合、平常の時間割のとおり授業を開始する。</p> <p>2 暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が午前 11 時までに解除された場合、平常の時間割のとおり午後から授業を開始する。</p>				

別表 2)

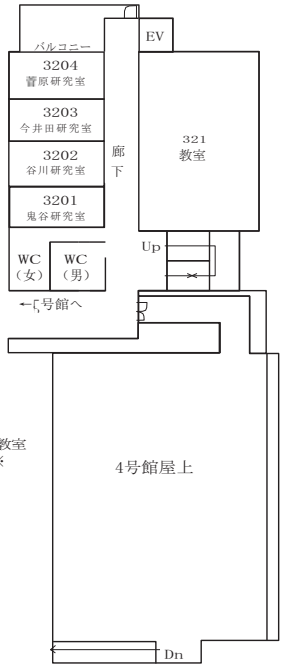
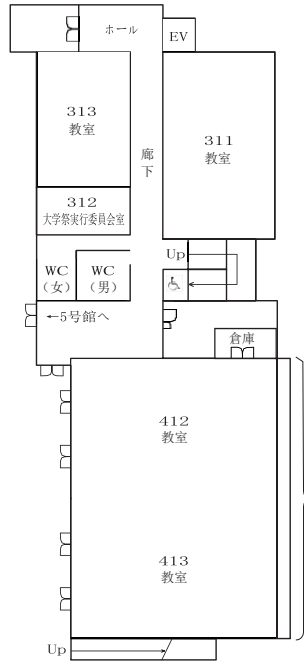
<人間環境学部、心理学部、環境科学部および人間環境学研究科>

休講とする場合	名古屋鉄道が運行停止となったとき	
ストライキ終了に伴う授業の開始	名古屋鉄道が運行を再開した場合は、運行再開時間にもとづき、授業を開始する	
	運行再開時間	授業開始時限
	7:00 まで	第 1 時限
	9:00 まで	第 2 時限
	11:00 まで	第 3 時限
	13:00 まで	第 4 時限
	14:00 まで	第 5 時限

5号館



3号館 (講義棟) / 4号館



※412教室と413教室を
つなげた状態

